

パーティション操作ツール

パーティション コマンドー 8 公式ガイドブック

編集・制作 エーアイ出版株式会社

発行 平成 15年 5月 23日

本冊子の内容についての質問は、インストール時の障害や不明点を含めて、お受けしておりません。あしからずご了承ください。

本冊子の掲載内容の無断転載・複製を禁じます。

System Commander Partition Commandeは米国 V Comm un ication s社の登録商標です。

Partition Wizard BackStep Wizardは米国 V Comm un ication s社の商標です。

Microsoft Window sは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

C O N T E N T S

ステップ1	パーティションコマンドー 8の特長	4
ステップ2	インストールする前の注意事項	8
ステップ3	パーティションコマンドー 8をインストールする	10
ステップ4	パーティションコマンドー 8をアンインストールする	12
ステップ5	パーティションを理解しよう	14
ステップ6	マルチブートしてみよう	17
ステップ7	パーティションウィザードの使い方.....	18
ステップ8	パーティション操作画面の見方.....	20
ステップ9	パーティションを作成するには	22
ステップ10	パーティションを削除するには	24
ステップ11	パーティションのサイズを変更するには.....	26
ステップ12	パーティションを大きくするには(空き領域を使用) - パーティションウィザード	28
ステップ13	パーティションを大きくするには(未使用領域を使用) - パーティションウィザード	29

ステップ14	パーティションをコピーするには - パーティションウィザード	30
ステップ15	パーティションをコピーするには - 手動操作	31
ステップ16	パーティションを移動するには	32
ステップ17	ファイルシステムを変換するには	33
ステップ18	パーティションの表示 / 非表示を切り替えるには	34
ステップ19	Windows Me/2000/XPと Windows Me/XPを共存するには	35
ステップ20	Windows Me/2000/XPとLinuxを共存するには ...	38
ステップ21	パーティション操作を元に戻す / OSのアンインストール - BackStepウィザード	41
ステップ22	トラブルシューティング	43
索引	47

ステップ 1

パーティション Commander 8 の特長

パーティション Commander 8は、ハードディスク内のパーティションをグラフィカルに操作できるソフトです。また、複数のOSを切り替えて起動する「システム Commander パーソナル」も付属しています。まずは、本製品の特長を紹介しましょう。

パーティションを操作できる

最近のハードディスクは非常に容量が大きく、そのようなハードディスクを1つの領域として使うのは、あまり効率がよくありません。たとえば、OS / アプリケーションとデータファイルとを別のドライブに保存すれば、仮にOSがクラッシュしたとしても、データファイルへの損害が出にくくなります。

このように、ハードディスクを複数の領域(パーティション)に分けると便利になる場合があります。しかし、Windows標準の機能では、既存のパーティションの中身を保ったまま、パーティションのサイズを変えることはできません。

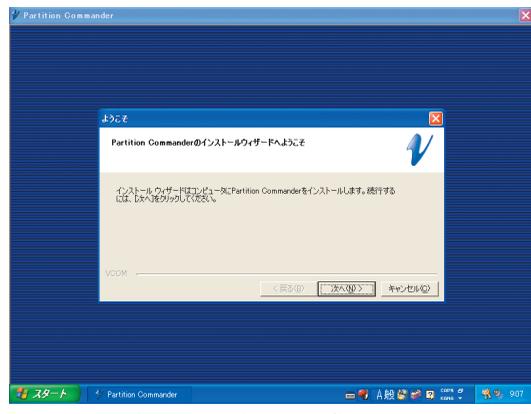
パーティション Commander 8を使うと、ハードディスク内のパーティションをさまざまに操作できます。ユーザ

ーインターフェースはWindowsと同じなので、操作も分かりやすくなっています。

なお、パーティション Commander 8は、Windows 2000 / XPのNTFSパーティションにもインストールできるようになりました。



パーティション Commander 8



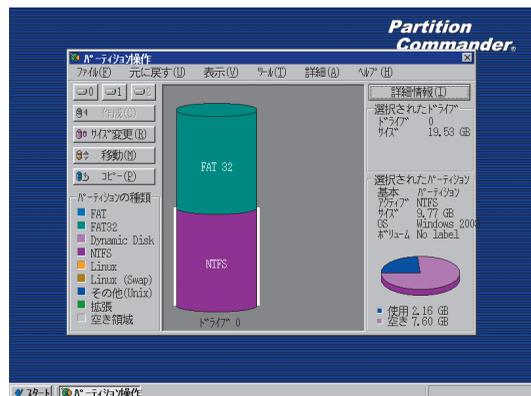
Windows XP上でのインストールも可能

基本的な処理はパーティション操作画面で

パーティション Commanderの基本となるのは、「パーティション操作」の画面です。この画面では、次のような操作が行えます。

・パーティション状態を表示する

ハードディスク上の現在のパーティションの状況を、グラフィカルに表示できます。



ハードディスクの状況を表示する

・パーティションを新規に作成する

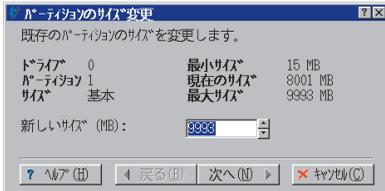
ハードディスク上の空き領域(パーティションに割り当てられていない領域)に、新しいパーティションを作成できます。Windows Meで使われているFAT32や、Windows 2000 / XPで使われるNTFSをはじめとして、多くの種類のパーティション作成に対応しています。また、このバージョンからはLinuxのExt3とReiserFSのパーティションにも対応しています。



多くの種類のパーティション作成に対応している

・パーティションのサイズを変更する

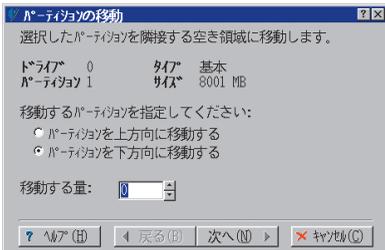
パーティションのサイズを増やしたり減らすことができます。新しいパーティションを作るために既存のパーティションのサイズを減らしたり、空き領域を使ってパーティションのサイズを増やしたりするのに使用します。



パーティションのサイズを変更する

・パーティションを移動する

1台のハードディスクの中で、パーティションの位置を移動できます。パーティション間の空き領域を詰めて、整理するようなときに使用します。



パーティションを移動する

・パーティションをコピーする

同じハードディスクの中や、違うハードディスクとの間で、パーティションをコピーできます。パーティションのバックアップなどに便利です。



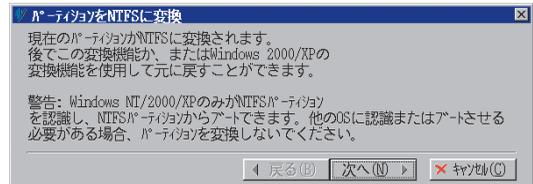
パーティションをコピーする

・パーティションを削除する

ハードディスク上の既存のパーティションを削除できます。

・パーティションを変換する

FAT FAT32、FAT NTFS、FAT32 NTFSでパーティションのファイルシステムを相互変換できます。Windows MeからWindows XPにアップグレードした場合などに使用します。また、パーティションコマンドー 8では、Windows 2000 / XPのダイナミックディスクから、ベーシックディスクに戻す機能も追加されました。



パーティションのファイルシステムを変換する

複雑な処理はパーティションウィザードで

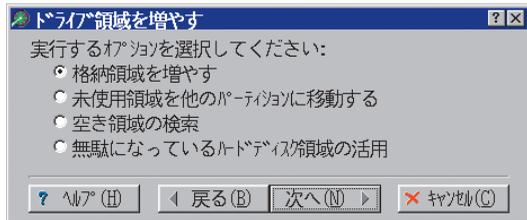
手順が複雑な処理は、「パーティションウィザード」を使って順を追って行います。パーティションウィザードには、次のような機能があります。



パーティションウィザード

・ドライブ領域を増やす

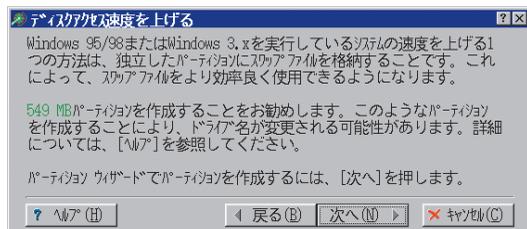
ハードディスク内の空き領域を既存のパーティションに割り当てたり、あるパーティションの中で使われていない部分を他のパーティションに割り当てることができます。



ドライブ領域を増やす

・ディスクアクセス速度を上げる

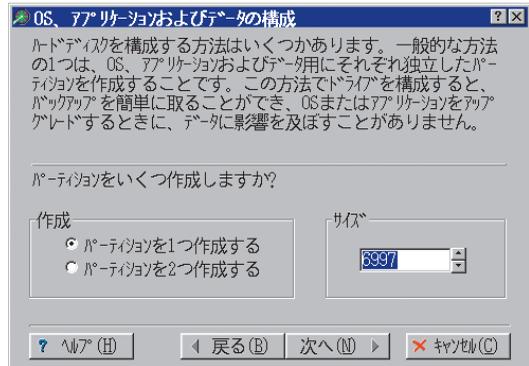
Windows 95/98またはWindows 3.xを実行しているシステムの色度を上げる1つの方法は、独立したパーティションにスワップファイルを格納することです。これによって、スワップファイルをより効率良く使用できるようになります。



ディスクアクセス速度を上げる

・構成を改善する

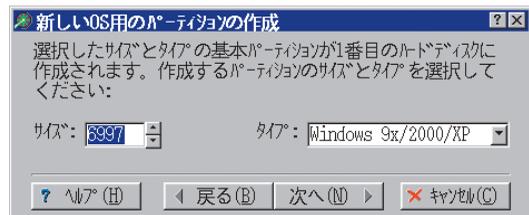
OS / アプリケーション用とデータ用のパーティションを分けるなど、ハードディスクの構成を良くするための機能です。



構成を改善する

・OSを追加する

新しいパーティションを作成し、そこにOSをインストールできるように準備をします。ハードディスクに空き領域がなければ、既存のパーティションが自動的に縮小されます。



OSを追加する

O N E P O I N T

BigD riveにも対応

最近のハードディスクには137GBを超える容量のものもありますが、BigD rive) パーティションコマンドー 8はBigD riveにも対応しています。最新の200GB超のドライブでも動作を確認しています。

間違った操作を元に戻す BackStepウィザード

パーティションの操作を間違ると、大事なデータが壊れてしまう、ということも考えられます。そこで、間違っ
て行った操作を元に戻す「BackStepウィザード」という
機能が用意されています。

なお BackStepウィザードは、パーティションコマ
ンダー 8をハードディスクから起動した場合のみ使用でき
ます。

BackStepウィザードで操
作を元に戻せる



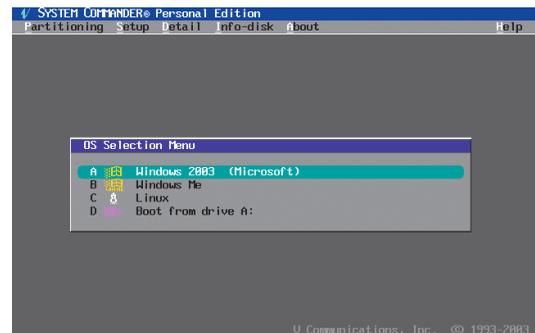
複数のOSを共存させるシステムコマンドーパーソナル

パーティションコマンドーの姉妹製品として、「システ
ムコマンドー 7 Plus」があります。これは、1台のパン
ソクに複数のOSをインストールして、パソコンの起動時
にそれらを切り替えて使用できるようにするソフトです。

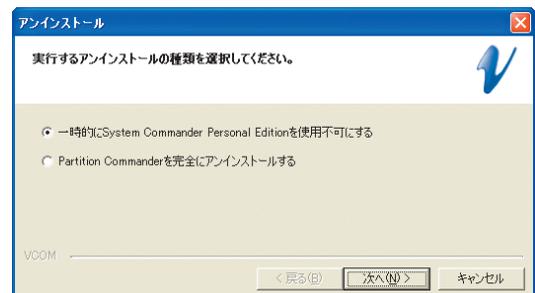
パーティションコマンドーには、システムコマンドー
の簡易版である「システムコマンドーパーソナル」が付
属しています。簡易版とはいえ、一般のユーザーにとっ
ては十分な機能が装備されています。Windows Me /
2000 / XPはもちろんのこと、MS-DOS / PC-DOS
などのDOS系のOSや、LinuxやFreeBSDなどの
UNIX系OSなど、幅広いOSに対応しています。

パーティションコマンドーでOSインストール用のパ
ーティションを作り、そこに新しいOSをインストールす
れば、OS選択メニューにそのOSが自動的に追加され
ます。

なお、システムコマンドーパーソナルは、必要なけれ
ば使わないように設定できます。複数OSを共存させな
い場合は、システムコマンドーパーソナルを使わない設
定にするとよいでしょう（12ページ参照）。



パソコンの起動時にOSを切り替えられる



システムコマンドーパーソナルの使用 / 未使用を切り替えられる

ステップ 2

インストールする前の 注意事項

パーティションコマンダーをインストールする際には、いくつか注意すべき点があります。これらの点は必ず守ってください。

バックアップをとる

パーティションコマンダーはハードディスクの重要な情報(MBR: マスターブートレコードなど)を書き換えます。そのため、作業中に停電が起こるなどのトラブルが起こった場合、Windowsが起動しなくなったり、ハードディスク内のファイルが壊れたりなどの問題が発生する可能性があります。

パーティションコマンダーをインストールする前には、Windows環境やデータファイルなど、必要なファイルはバックアップしておいてください。

特に、パーティション操作を行う場合、停電などがあるとファイル破損が起こる可能性が高くなります。そのような時のためにファイルを修復する機能も用意されていますが(リスタートディスク) 万が一の場合に備えて、パーティションを操作する前には必ずバックアップを行ってください。

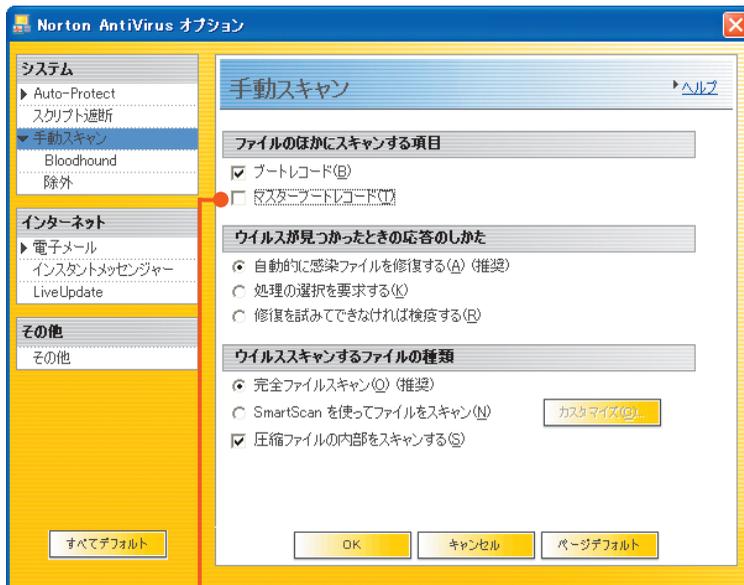
ウイルスチェックソフトとの併用

ウイルスの中には、MBRを書き換えて動作するタイプのもがあります。そのため、ウイルスチェックソフトには、MBRを監視する機能が多くの場合、備えられています。そのようなソフトでは、MBRが書き換えられると、MBRを元に戻す処理が行われる場合があります。

パーティションコマンダーと同梱のシステムコマンダーパーソナルはMBRにインストールするので、ウイルスチェックソフトによっては、システムコマンダーパーソナ

ルをウイルスだと判断してしまう可能性があります。その場合は、ウイルスチェックソフトのMBR監視機能をオフにしてから、パーティションコマンダーをインストールします。

なお、ウイルスチェックソフトのMBR監視機能の詳細については、個々のウイルスチェックソフトのマニュアルやヘルプを参照してください。

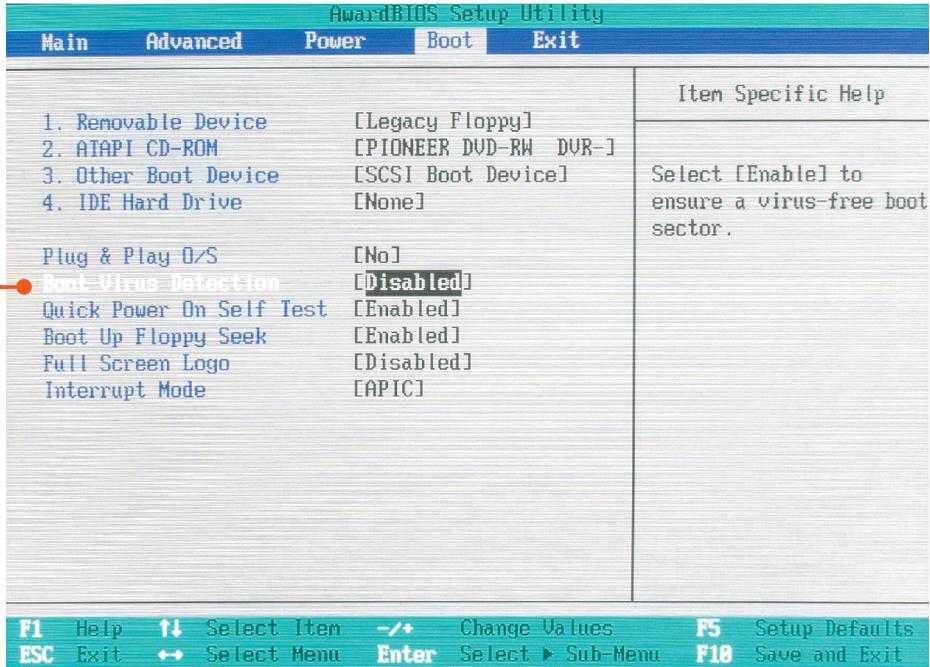


ウイルスチェックソフトでMBRをスキャンしない設定にする

BIOSのMBRチェック機能もオフにする

ウイルスチェックソフトだけでなく、パソコンのBIOSにもMBRをチェックする機能が備えられていることがあります。その場合も、パーティションコマンドのインストールがうまくいかないことが考えられます。

BIOSにMBRチェックの機能がある場合は、それをおフにしてからパーティションコマンドをインストールします。



BIOSでもMBRをチェックしない設定にする

ディスク圧縮ソフトの問題

ハードディスクの容量が十分でないパソコンの場合、ディスク圧縮ソフトを使って容量を増やしている方もいるかもしれませんが（たとえば、マイクロソフトのDoubleSpaceなど）、そのような場合、パーティションコマンドは圧縮されていない部分にインストールする必要があるなど、設定がやや複雑になります。

また、圧縮する必要があるということは、ハードディスクの容量が十分でないということです。そのような環境では、複数のOSを共存させるのはかなり厳しいでしょう。現在、大容量のハードディスクは比較的安価に購入できるようになっています。無用なトラブルを避けるためにも、ハードディスクを大容量のものに交換してから、パーティションコマンドをインストールすることをお勧めします。

なお、ディスク圧縮ソフトとパーティションコマンドを併用した場合は、サポート対象外となります。

ダイナミックディスクについて

Windows 2000/XPでは、ハードディスクを「ダイナミックディスク」に変換すると、複数台のハードディスクを1台にまとめて使ったり、パーティションの容量を自由に換えられるなど、いくつかのメリットがあります。

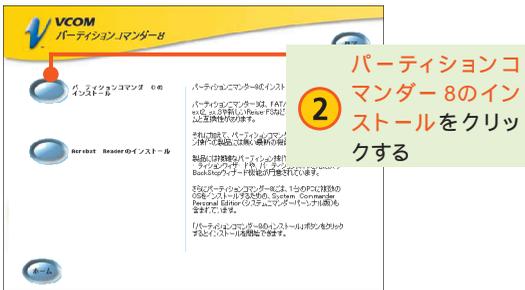
しかし、パーティションコマンドはダイナミックディスクには対応していません。パーティションコマンドを使う場合は、通常のハードディスク（ベーシックディスク）が必要です。パーティションコマンド 8は、ダイナミックディスクからベーシックディスクへの変換を行うことができます。

ステップ 3

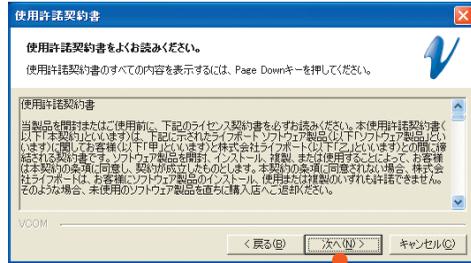
パーティション Commander 8 をインストールする

それでは、パーティション Commander 8をインストールしましょう。インストールの際には、「起動ユーティリティディスク 1」と「リスタートディスク 2」を作るために、空のフロッピーディスクが2枚必要になります。

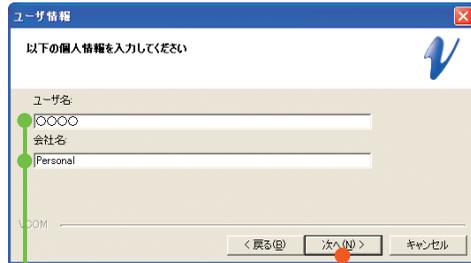
パーティション Commander の CD-ROM をドライブにセットすると、自動的にインストーラが起動する



3 「ようこそ」の画面が表示されたら、次へボタンをクリックする



4 使用許諾契約書を読んで、次へボタンをクリックする



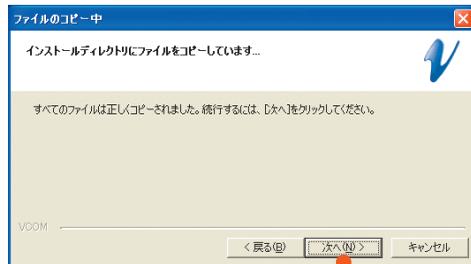
5 ユーザ名と会社名を入力する

6 次へボタンをクリックする



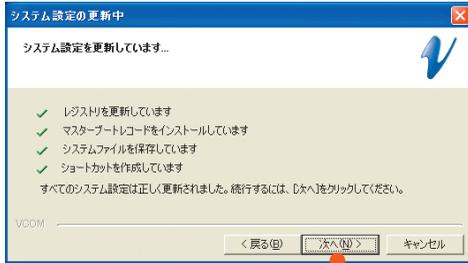
7 はいを選ぶ

8 次へボタンをクリックする

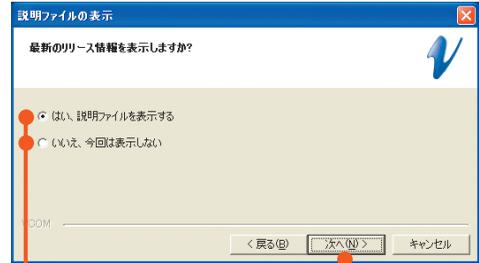


9 ファイルのコピーが終わったら、次へボタンをクリックする

ステップ 3 パーティションコマンドー 8 をインストールする

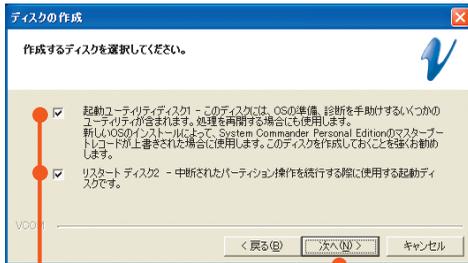


10 システム設定が終わったら、次へボタンをクリックする



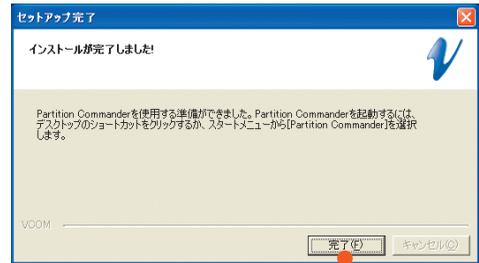
14 説明ファイルを表示するかどうかを選ぶ

15 次へボタンをクリックする

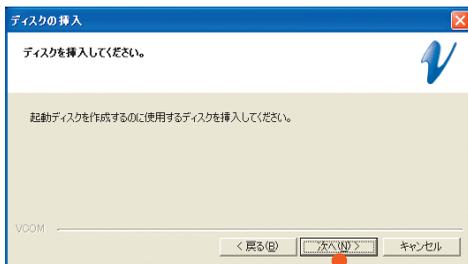


11 起動ユーティリティディスク 1 とリスタートディスク 2 のチェックを確認する

12 次へボタンをクリックする



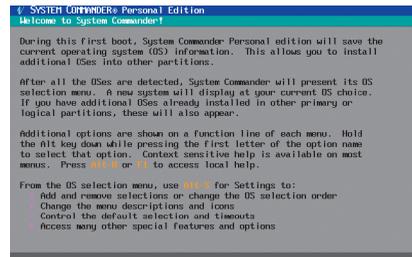
16 完了ボタンをクリックして、インストールを完了する



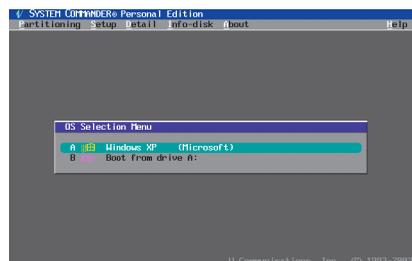
13 フロッピーディスクをドライブにセットして、次へボタンをクリックし、起動ユーティリティディスク 1 を作る

同様の手順でリスタートディスク 2 も作る

Windowsを再起動するとこの画面が表示されるので、Enterキーを押す



これ以後は、マシンの起動時にこのようなメニューが表示される。カーソルキーで起動したいOSを選んでEnterキーを押すと、そのOSが起動できる



ステップ 4

パーティション Commander 8 をアンインストールする

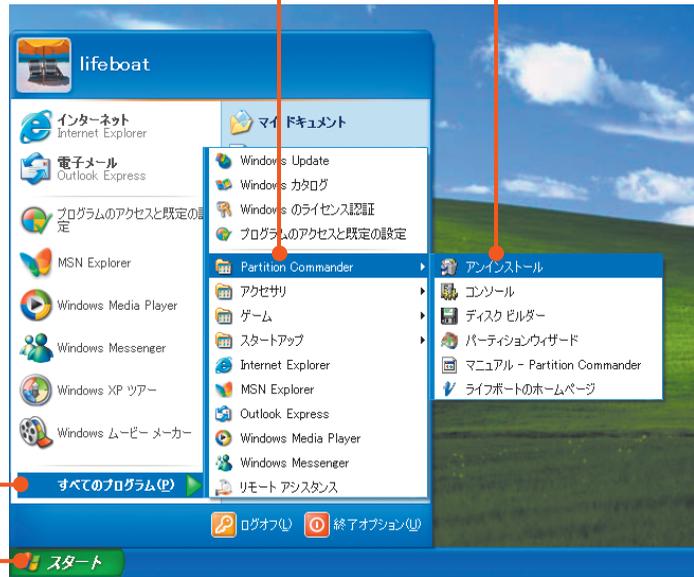
パーティションを使う必要がなくなった場合は、アンインストールができます。また、システム Commander パーソナルの使用 / 不使用を一時的に切り替えることも可能です。

1 スタートボタンをクリックする

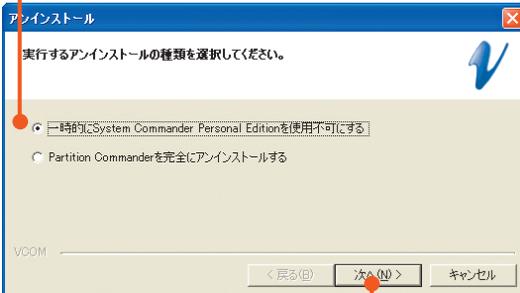
2 すべてのプログラムを指す

3 Partition Commander を指す

4 アンインストールをクリックする



5 アンインストール画面が表示されるので、一時的に System Commander Personal Edition を使用不可にするを選ぶ



6 次へ ボタンをクリックする

システム Commander パーソナルを一時的に使用不可にする

システム Commander パーソナルを使用するのを一時的に止めると、マシンの起動時にすぐに OS が起動するようになります。

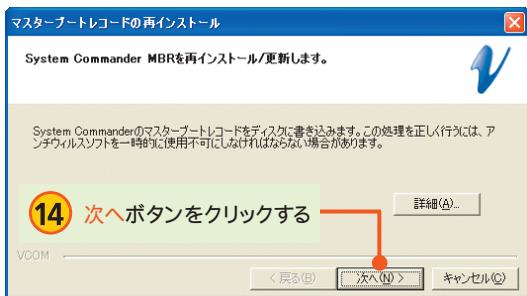
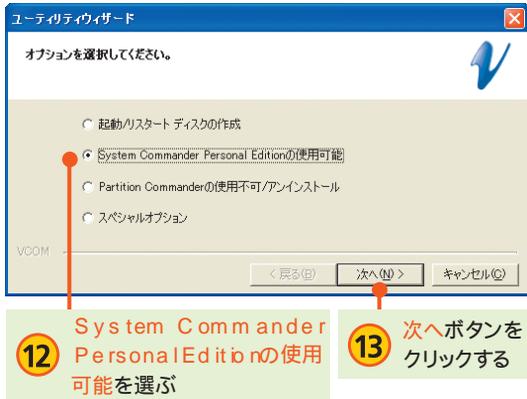
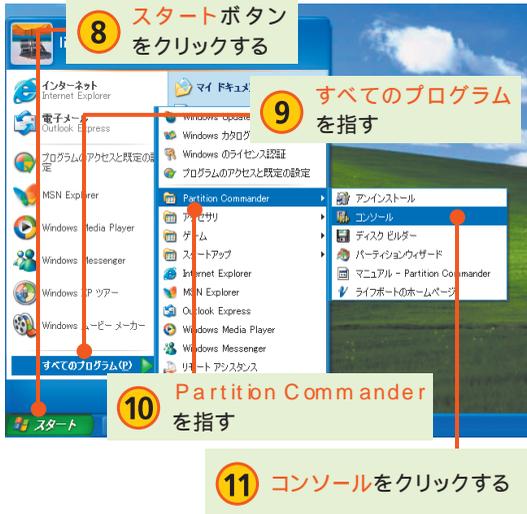
「System Commander は使用不可になりました」というメッセージが表示される



7 OK ボタンをクリックする

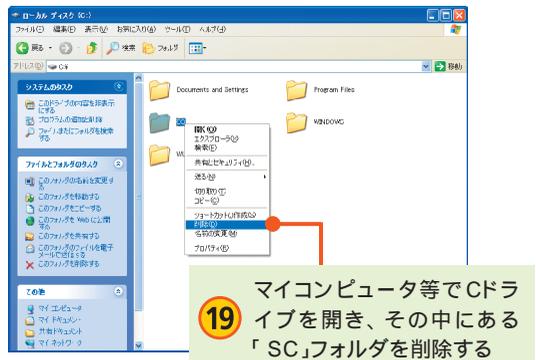
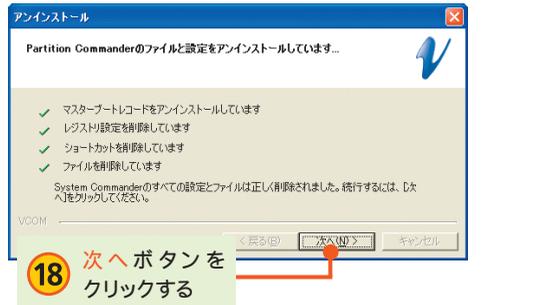
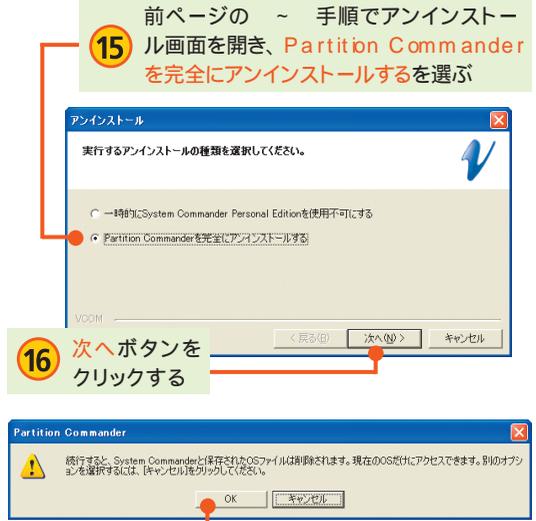
システムコマンドーパーソナルを 使用可能な状態に戻す

システムコマンドーパーソナルを使用不可にした後、再度使用可能な状態に戻すこともできます。



パーティションコマンドーを アンインストールする

パーティションコマンドーをアンインストールする手順は、次のようになります。



ステップ 5

パーティションを理解しよう

パーティションコマンドはパーティションを操作するソフトですが、そもそも「パーティション」はどのようなものでしょうか？ インストールの前に、まずパーティションについて解説しておきます。

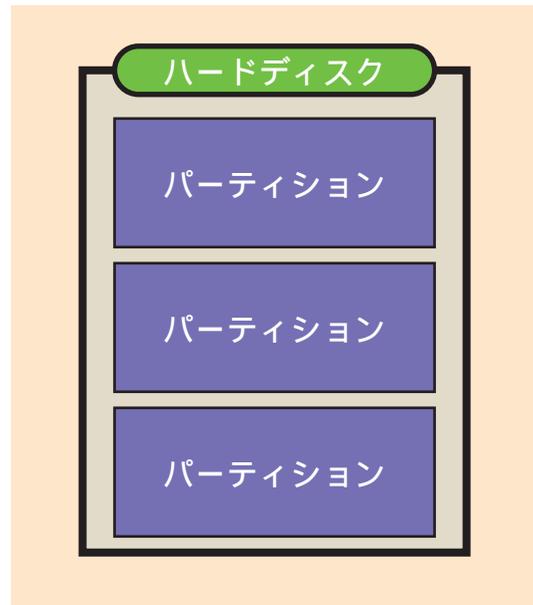
ハードディスクをパーティションに分割する

私達が大きな箱に物を片付ける場合、中に仕切りを入れていくつかの部分に分けて、物を整理して片付けることがあります。

ハードディスクのパーティションも、これと同じようなものです。ハードディスクはソフト的に複数の領域に分けることができるようになっていて、それぞれの領域のことを「パーティション」と呼びます。

たとえば、ハードディスクを2つのパーティションに

分けて、片方にWindows等のOSをインストールし、もう片方にデータファイルを保存する、ということもできます。



1台のハードディスクを複数のパーティションに分割する

基本パーティション / 拡張パーティション / 論理パーティション

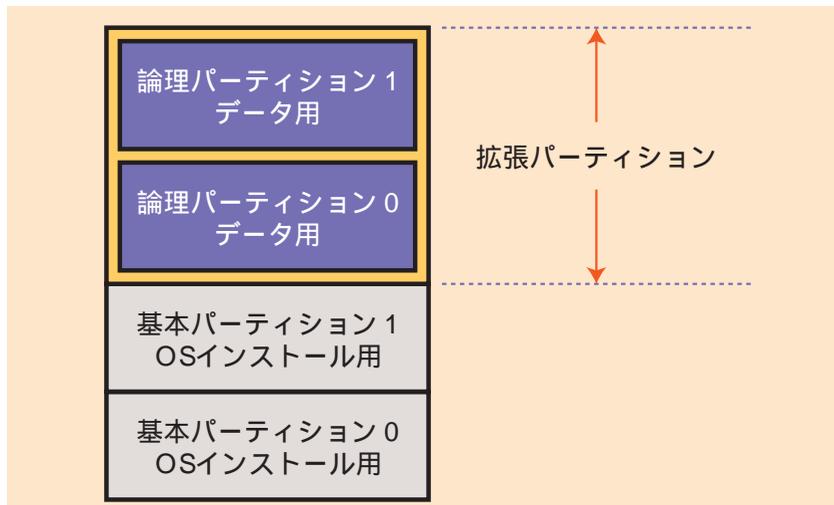
パーティションには、基本パーティション / 拡張パーティション / 論理パーティションの3つの種類があり、それぞれで用途が違います。

基本パーティションは、主にOSをインストールするために使用します。たいていのOSは、基本パーティションにインストールして使うようになっています。

拡張パーティションは、ハードディスクを細かくパーティションに分ける際に使用します。拡張パーティションの中には論理パーティションを作ることができ、それによってパーティションを細かく分けます。

論理パーティションは、主にデータファイルを保存するために使用します。

OSによっては論理パーティションに直接インストールできるものもありますが(Linuxなど)、できないものもある



パーティションの作り方の例

ります (Windows など)。

たとえば、ハードディスクを4つのパーティションに分け、そのうちの2つにOSをインストールし、残りの2つをデータファイル用にするとしましょう。その場合、基本

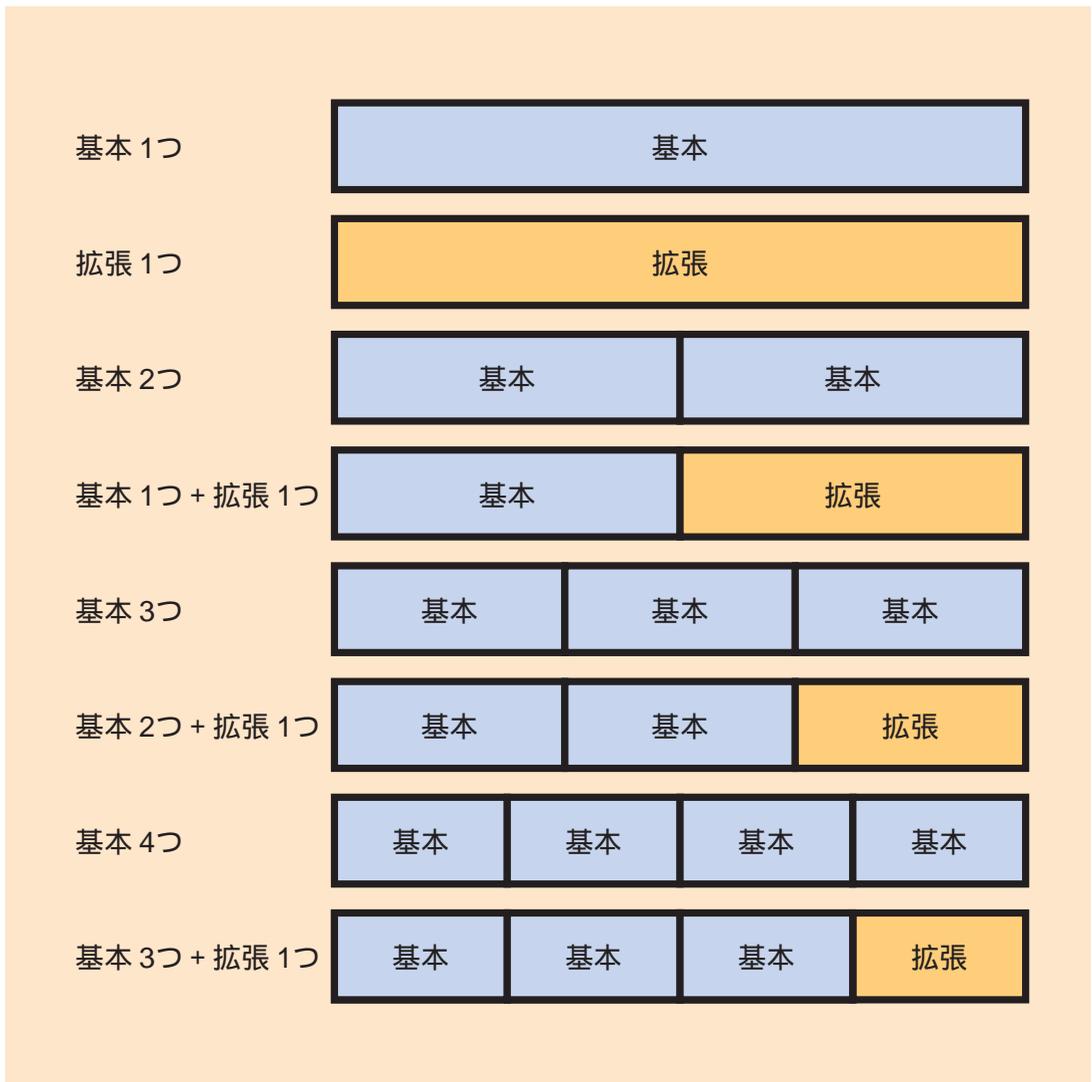
パーティションを2つと拡張パーティションを1つ作り、拡張パーティションの中に論理パーティションを2つ作成します。

パーティションの数の制限

1台のハードディスクには、基本パーティションと拡張パーティションを合わせて4個まで作成できます。ただし、拡張パーティションは、ハードディスク1台につき1つしか作ることができません。したがって、基本パーティシ

ョンと拡張パーティションの組み合わせ方は、次のようなパターンになります。

なお、拡張パーティションの中の論理パーティションの数には特に制限はありません。



パーティションの組み合わせのパターン

パーティションとファイルシステム

パーティション内のファイルの管理方法は、OSによって異なっています。この管理方法のことを「ファイルシステム」と呼びます。パーティションを作る際には、そのパーティションをどのようなOSで使うのかを考えて、ファイルシステムを決めるようにします。

また、複数のOSからアクセスできるようにしたいパーティションは、それらすべてのOSが対応しているファイ

ルシステムにする必要があります。たとえば、Windows Me/Windows XP/Linuxの3つのOSを共存させる場合、これらすべてのOSでアクセスできるようにするには、FATかFAT32のパーティションを作る必要があります。ただし、FATでは2GBの容量制限があるので、現実的にはFAT32を使うことになるでしょう。

名前	内容	対応するOS
FAT	MS-DOS時代から使われ続けているファイルシステム。多くのOSが対応している。ただし、パーティションのサイズが2GBに制限される	ほとんどのOS
FAT32	FATの「最大サイズ2GB」の制限を取り払って、大容量のハードディスクに対応させたもの。ただし、対応するOSが幾分限定される	Windows 95 OSR2以降 / 98 / Me / 2000 / XP、Linux、FreeBSDなど
NTFS	Windows NT以降で採用されたファイルシステム。セキュリティ面を中心に、FATに比べてさまざまな機能強化がなされている	Windows NT / 2000 / XP、Linux、FreeBSDなど
ext2	Linuxで標準的に使われているファイルシステム	Linux
ext3	ext2を拡張したファイルシステム。事故等でファイルが壊れても、復旧できる可能性が高くなっている	Linux
FreeBSD	UFS (Berkeley Fast File System)	FreeBSD

ファイルシステムの種類

パーティションとドライブ名

個々の基本パーティションと論理パーティションには、CやDなどのドライブ名が付きます。ドライブ名は基本パーティションから割り当てられ、その後で論理パーティションに割り当てられます。

たとえば、ハードディスクが2台あり、それぞれに基本パーティションと論理パーティションが1つずつある場合、ドライブ名の割り当ては次のようになります。

1台目の基本パーティション Cドライブ

2台目の基本パーティション Dドライブ

1台目の論理パーティション Eドライブ

2台目の論理パーティション Fドライブ

つまり、ハードディスクが2台以上あって、1台目に論理パーティションがある場合、2目以降のハードディスクに基本パーティションを作るとドライブ名がずれることになります。この点は注意が必要です。

マルチブートしてみよう

パーティションコマンドーには、「システムコマンドーパーソナル」という機能も用意されていて、複数のOSを切り替えて起動することができます。これを「マルチブート」と呼びます。ここでは、その仕組みを簡単に解説しておきましょう。

OSが起動するまでの流れ

パソコンの電源を入れてしばらくするとOSが起動しますが、そこまでの流れを図にすると次のようになります。OSの起動の際には、「MBR」(マスターブートレコードの略)が重要な役割をします。MBRはハードディスクの一番最初のセクタに保存されています。パソコンのBIOSは、システムの初期化を行った後、MBRをメモリに読み込んで実行します。MBRはハードディスクからOSのローダープログラムを読み込み、そこに処理を移します。それによって、OSが読み込まれて起動するようになっています。



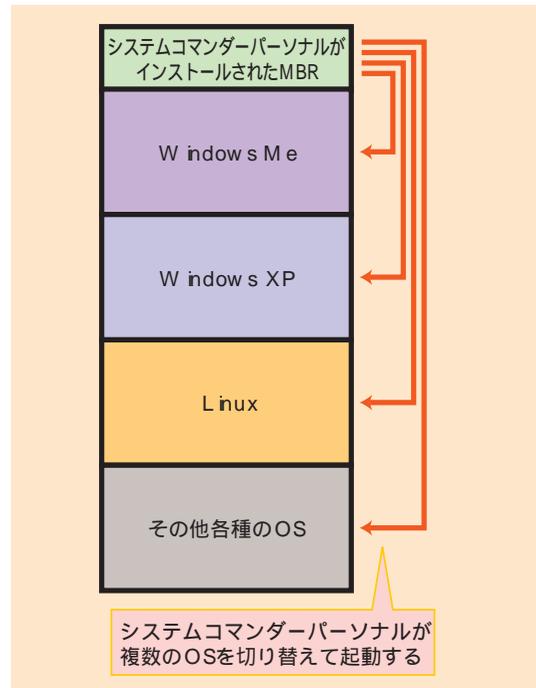
OSが起動するまでの流れ

システムコマンドーパーソナルは MBRを置き換える

通常のMBRは、ある1つの決まったOSを起動する処理が入っています。たとえば、Windows Meをインストールすると、MBRにはWindows Meを起動するための処理が書き込まれます。

しかし、MBRの内容を変えれば、複数のOSを切り替えて起動する処理を入れることもできます。システムコマンドーパーソナルは、そのような仕組みを使ってマルチブートを行います。

なお、MBRはサイズが小さく、システムコマンドーパーソナル全体を格納することはできません。そのため、システムコマンドーパーソナルの本体はCドライブにインストールされます。



システムコマンドーパーソナルでOSを切り替えて起動する

ONE POINT

MBRとパーティションテーブル

MBRには「パーティションテーブル」という情報も入っています。パーティションテーブルには、基本パーティションと拡張パーティションの配置情報が入っています。

ステップ 7

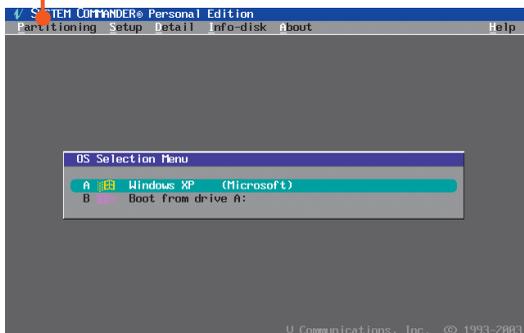
パーティションウィザードの使い方

パーティションの操作は、パーティションウィザードで行う方法と、手動で行う方法があります。まずは、パーティションウィザードの起動方法や画面の見方などを紹介します。

パーティションウィザードの起動

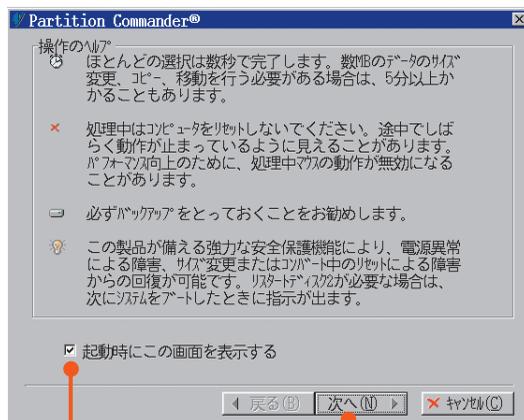
パーティションウィザードの起動手順は、次のようになります。

- 1 マシン起動時のOS選択メニューで、**A It+ P**キーを押す



- 2 パーティションウィザードを初めて起動すると英語で警告メッセージが表示されるので、**OK**ボタンをクリックする

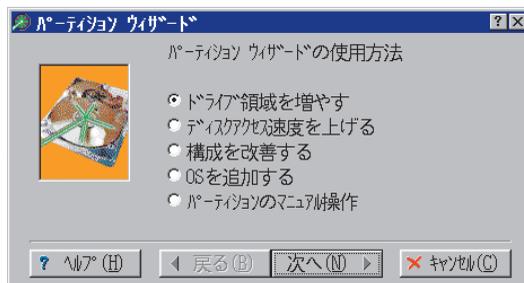
パーティション操作に関する注意事項が表示される



起動時にこの画面を表示するのチェックをオフにすれば、次回以降はこの画面は表示されなくなる

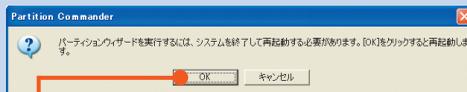
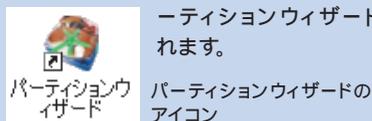
- 3 次へボタンをクリックする

パーティションウィザードのメニューが表示される



ONE POINT

Windowsが起動している状態で、デスクトップ上のパーティションウィザードのアイコンをダブルクリックし、メッセージに対してOKボタンをクリックすれば、パソコンが再起動して、その後にパーティションウィザードが起動されます。



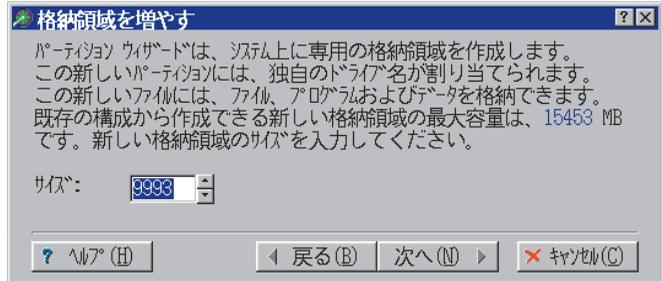
OKボタンをクリックするとパーティションウィザードが起動する

パーティションウィザードの機能

パーティションウィザードには、次の機能があります。

ドライブの領域を増やす

パーティションの中で使われていない部分(未使用領域)を他のパーティションに移動したり、ハードディスクの空き領域をパーティションに割り当てることができます。

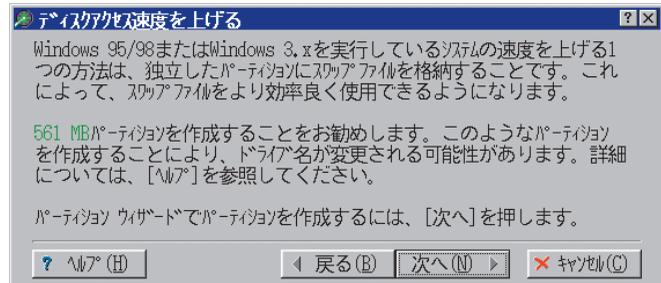


パーティション内の未使用領域を他のパーティションに移動できる

ディスクアクセス速度を上げる

Windows 95 / 98 / Meでは、アプリケーションを複数起動するなどしてメモリが不足すると、「スワップファイル」というファイルにメモリの内容を一時的に退避して、その後の処理を続けるようになっています。

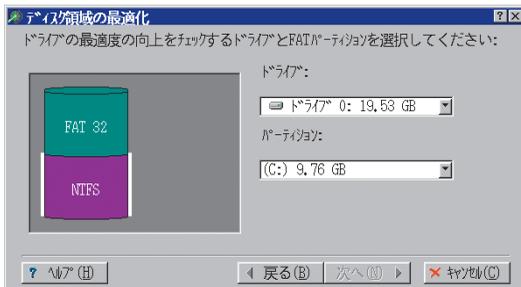
このスワップファイルを専用のパーティションに格納することで、スワップファイルの処理効率が良くなります。「ディスクアクセス速度を上げる」は、そのための機能です。



スワップファイルを専用のパーティションに格納することで効率をアップさせる

構成を改善する

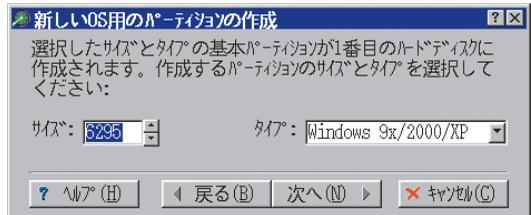
この機能では、パーティション内の無駄な領域を有効活用できるようにしたり、パーティションを丸ごとコピーしたり、OSを追加でインストールするためのパーティションを作成することができます。



パーティション内の無駄な領域を有効活用できるようにする

OSを追加する

この機能では、OSをインストールするために、新しいパーティションを作成できます。



OSを追加するためのパーティションを作成できる

パーティションの手動操作

パーティションの作成 / 削除 / サイズ変更などを手動操作で行う場合は、「パーティションのマニュアル操作」を選びます。手動操作の手順は、この後のページで順次解説していきます。

ステップ 8

パーティション操作画面の見方

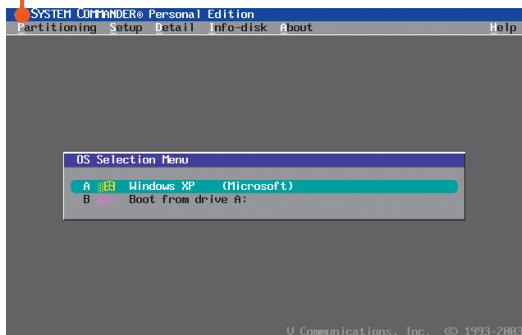
パーティションの作成 / 削除 / サイズ変更などを手動で行うには、「パーティション操作」の機能を使います。ここでは、パーティション操作の画面の見方を解説します。

パーティション操作の起動

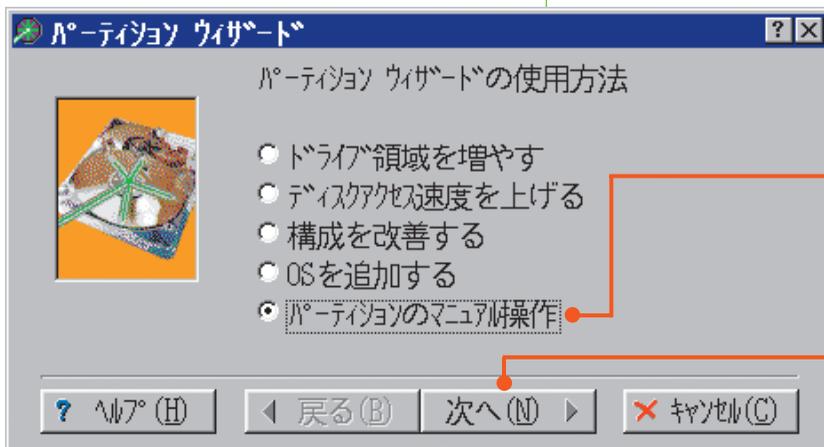
パーティション操作の機能は、次の手順で起動します。

マシンを起動し、OS選択メニューを表示する

1 A It+ Pキーを押す



パーティションウィザードが起動する



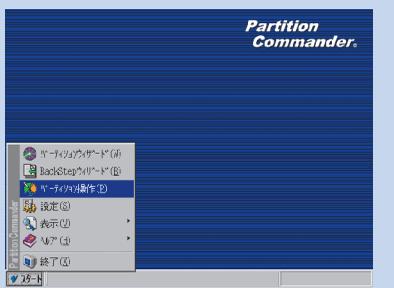
2 パーティションのマニュアル操作を選ぶ

3 次へボタンをクリックする

OPERATION POINT

操作方法について

パーティションコマンドのスタートメニューで「パーティション操作」を選んで、パーティション操作画面に移行することができます。



パーティション操作画面の見方

パーティション操作の画面は、次のような構成になっています。

パーティション操作画面の見方

4 操作する対象のドライブを選ぶ

5 作成やサイズ変更など、パーティションに対して行う操作を選ぶ

パーティションの種類
種類の凡例

- FAT
- FAT32
- Dynamic Disk
- NTFS
- Linux
- Linux (Swap)
- その他(Unix)
- 拡張
- 空き領域

現在選択中のドライブのパーティションの状況

拡張パーティションがある場合、その中の論理パーティションの状況も表示される

現在選択しているドライブについて、容量等の情報が表示される

項目	値
ドライブ	0
サイズ	19.53 GB

項目	値
基本	パーティション
アクティブ	NTFS
サイズ	9.77 GB
OS	Windows 200
ボリューム	No label

項目	容量
使用	2.16 GB
空き	7.60 GB

6 詳細情報ボタンをクリックする

ドライブの詳細な情報が表示される

項目	値
ドライブ	0
セクタの合計	40949685
BIOSセクタ	63
BIOSヘッド	255
BIOSシリンダ	2549

項目	値
基本	パーティション 0
アクティブ	NTFS (7)
サイズ	9.77 GB
OS	Windows 200
ボリューム	No label
クラスサイズ	4 KB
開始セクタ	1
ヘッド	1
シリンダ	0
終了セクタ	63
ヘッド	254
シリンダ	1274
第1セクタ	63
セクタの合計	20482812

ステップ 9

パーティションを作成するには

ハードディスクに空き領域があれば、そこに新しいパーティションを作ることができます。パーティションの作成は、パーティションの手動操作の画面から行います。

基本パーティション / 論理パーティションの作成

1 空き領域をクリックする

2 作成ボタンをクリックする

基本 / 拡張のどちらも作れる状態の時はこのメッセージが表示される

3 基本を選ぶ

4 次へボタンをクリックする

5 パーティションの容量をMB単位で指定する

6 パーティションの種類を設定するをチェックする

7 次へボタンをクリックする

8 作成するパーティションの種類を選ぶ (ここでは FAT32)

9 次へボタンをクリックする

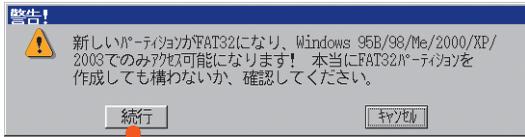
10 パーティションを空き領域の始め / 終わりのどちらに作るかを指定する

空き領域の一部をパーティションに割り当てる場合、次の画面が表示される

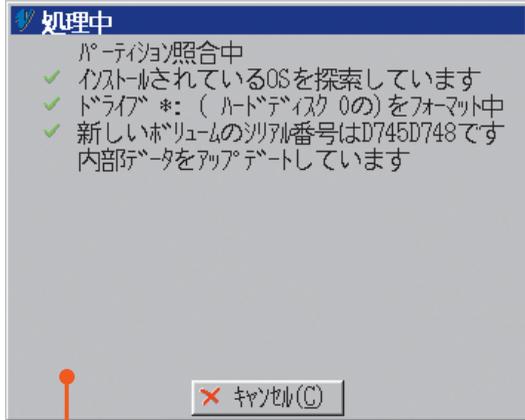
11 次へボタンをクリックする

11 次へボタンをクリックする

パーティションに対応するOSの情報が表示される

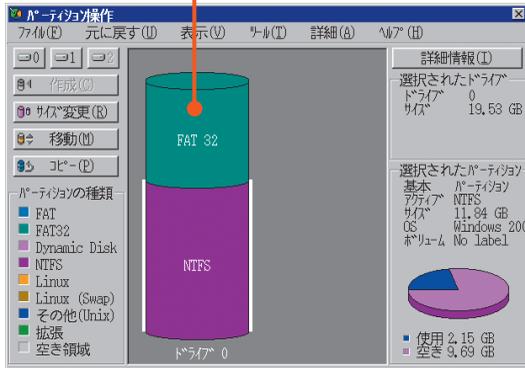


12 続行ボタンをクリックする

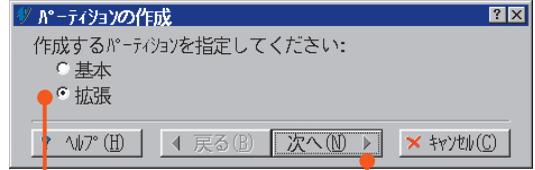


パーティションが作成される(しばらく時間がかかる)

パーティションができると、その状態が表示される



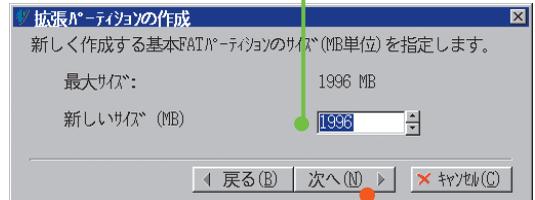
拡張パーティションの作成



13 手順の画面で拡張を選ぶ

14 次へボタンをクリックする

15 拡張パーティションに割り当てる容量をMB単位で指定する



16 次へボタンをクリックする

その後、拡張パーティション内に論理パーティションを作成する状態になるので、手順 5以降の操作を行う

ONE POINT

空き領域が必要

パーティションを新規作成するには、ハードディスクに空き領域(パーティションに割り当てられていない領域)が必要です。ハードディスクのすべての領域がパーティションに割り当てられている場合は、サイズ変更の機能を使って空き領域を作ってから新規に作成します。

ステップ10

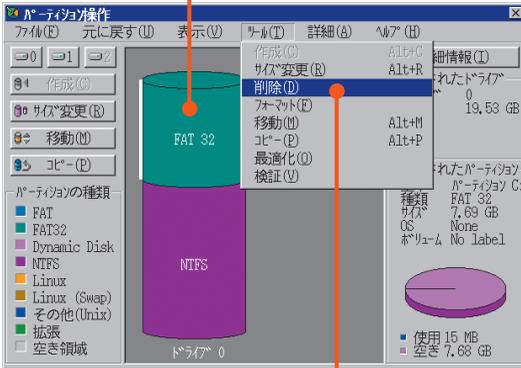
パーティションを削除するには

ハードディスク上のパーティションを削除することもできます。

基本パーティション / 論理パーティションの削除

基本パーティション / 論理パーティションを削除する手順は、次のようになります。

1 削除したいパーティションを選択する



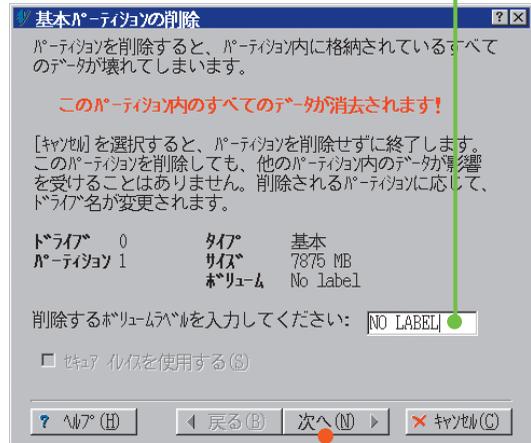
2 ツール 削除メニューを選ぶ

ONE POINT

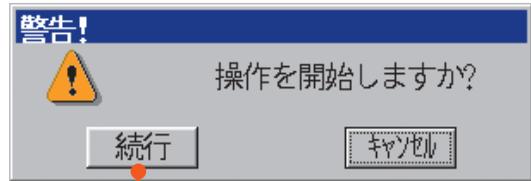
注意

パーティションを削除すると、中に入っているプログラムやデータはすべてなくなります。

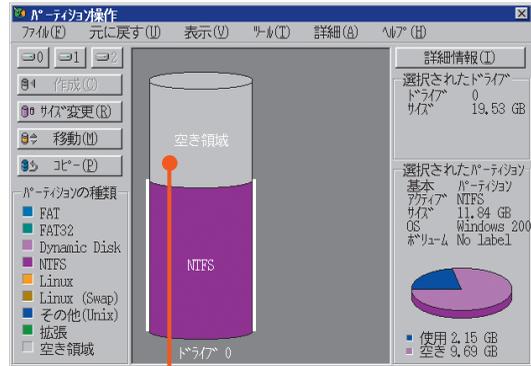
3 パーティションのボリュームラベルを入力する



4 次へボタンをクリックする



5 続行ボタンをクリックする

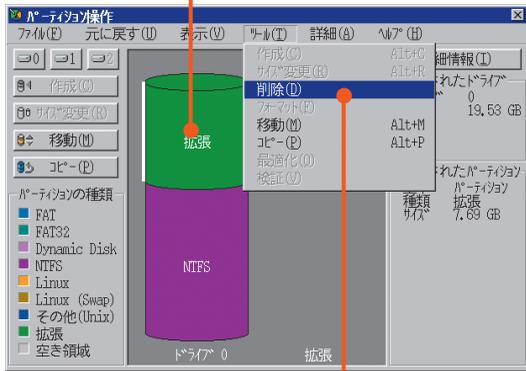


削除後の状態が表示される

拡張パーティションの削除

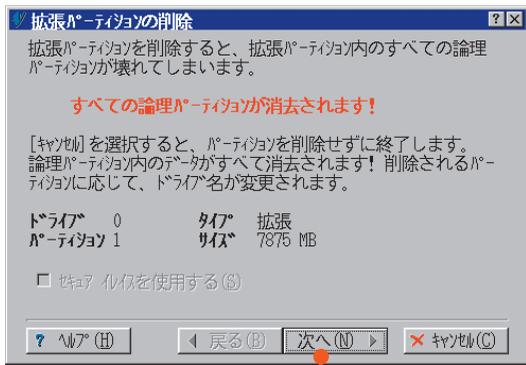
拡張パーティションも削除することができます。その際、拡張パーティション内に論理パーティションがあれば、それもすべて削除されます。

6 拡張パーティションを選ぶ



7 ツール 削除メニューを選ぶ

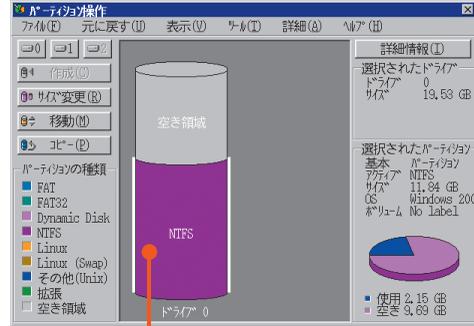
警告メッセージが表示される



8 次へボタンをクリックする



9 続行ボタンをクリックする

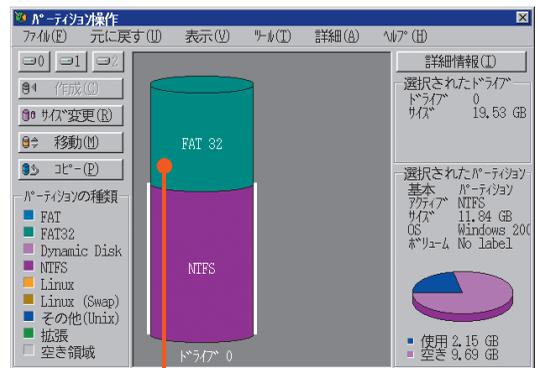
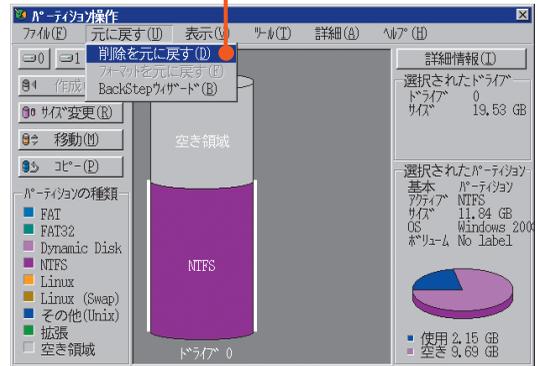


拡張パーティションが削除され、その後のパーティションの状態が表示される

削除の取り消し

パーティションを間違っ削除した場合、それを取り消すこともできます。この操作は、パーティションを削除した直後のみ実行可能です。

10 元に戻す 削除を元に戻すメニューを選ぶ



削除前の状態に戻る

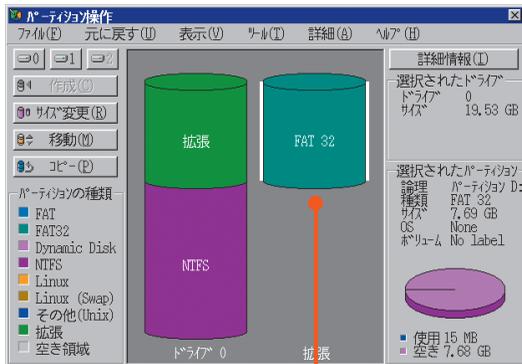
ステップ 11

パーティションのサイズを変更するには

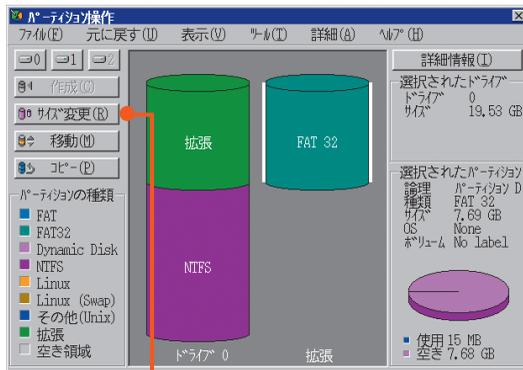
パーティション操作の画面では、既存のパーティションを小さくして空き領域を作ったり、また空いた領域を使ってパーティションを大きくするなど、パーティションのサイズを変更できます。

サイズ変更の手順

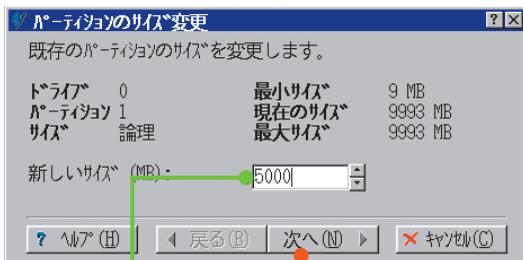
パーティションのサイズを変更する手順は、次のようになります。



1 パーティション操作を起動し(手順は20ページ参照)、サイズを変更したいパーティションを選択する



2 サイズ変更ボタンをクリックする



3 変更後のサイズをMB単位で指定する

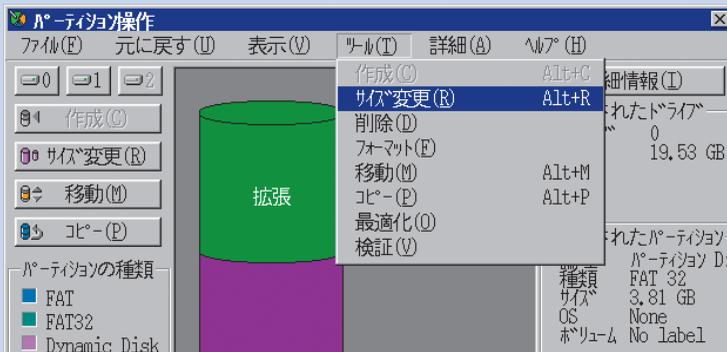
4 次へボタンをクリックする

ONE POINT

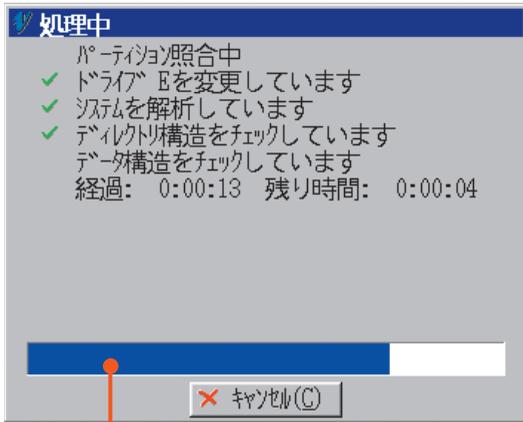
操作方法について

1つの操作を行う場合、操作方法が1つとは限りません。

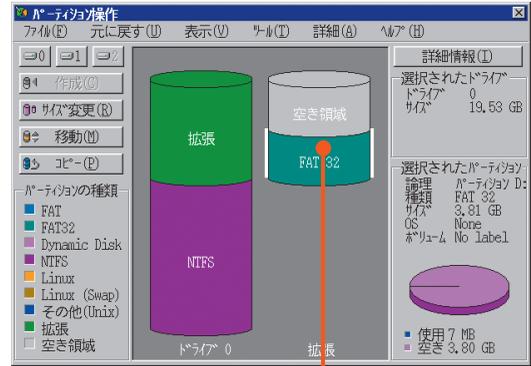
たとえば、手順でサイズ変更ボタンをクリックしましたが、これはツール サイズ変更メニューを選んで同じ操作になります。



ステップ 11 パーティションのサイズを変更するには



サイズ変更の処理が行われる（しばらく時間がかかる）



処理が終わると、変更後のパーティションの状況が表示される

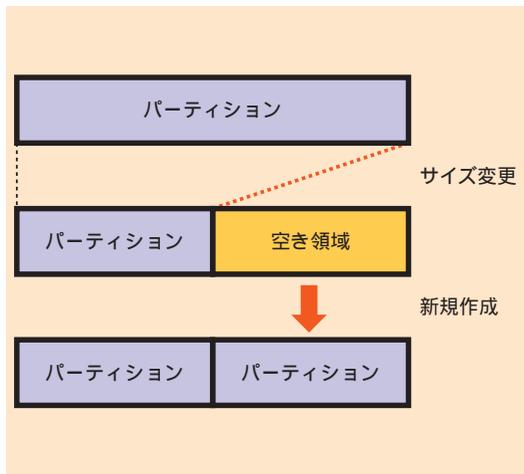
サイズ変更と他の機能を組み合わせる

パーティションのサイズ変更と他の機能を組み合わせると、次のようなことができます。

パーティションを分割する

1つの大きなパーティションを複数のパーティションに分けたい場合、まずそのパーティションのサイズを小さくして空き領域を作り、その空き領域に新しいパーティションを作成します。

パーティション作成の方法は「ステップ 9 パーティションを作成するには」(22 ページ) を参照してください。

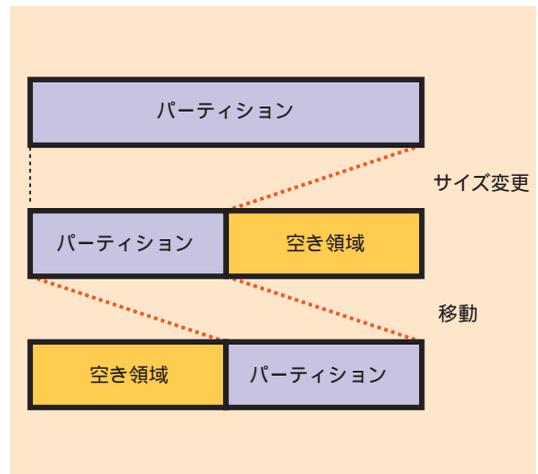


パーティションの分割の仕組み

パーティションの前に空き領域を作成する

サイズ変更の機能でパーティションのサイズを小さくすると、そのパーティションの後ろに空き領域ができます。前に空き領域を作りたい場合は、サイズを変更した後、そのパーティションを後ろいっぱいに移動します。

パーティションの移動方法は「ステップ 16 パーティションを移動するには」(32 ページ) を参照してください。



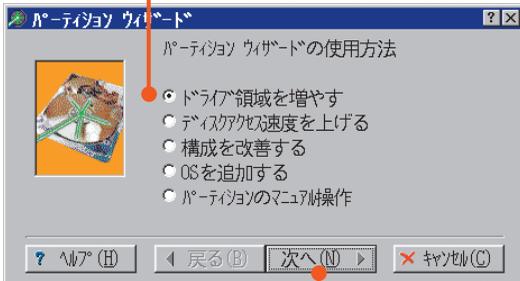
パーティションを移動すれば空き領域を移動できる

ステップ 12

パーティションを大きくするには(空き領域を使用) -パーティションウィザード

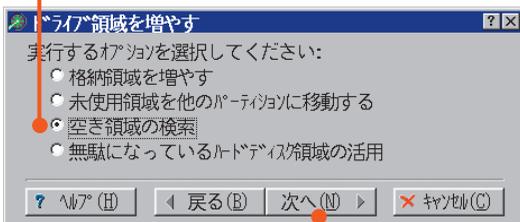
ハードディスクに空き領域(パーティションに割り当てられていない領域)がある場合、それを使って既存のパーティションを大きくすることができます。この操作はパーティションウィザードで行います。

1 ドライブ領域を増やすを選ぶ



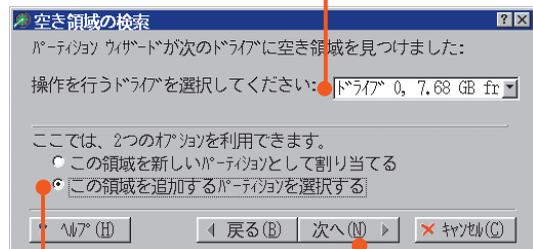
2 次へボタンをクリックする

3 空き領域の検索を選ぶ



4 次へボタンをクリックする

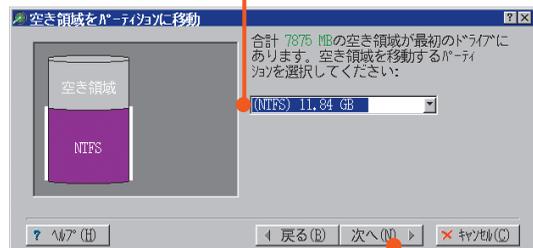
5 操作対象のドライブを選ぶ



6 この領域を追加するパーティションを選択するを選ぶ

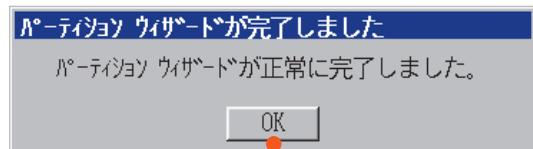
7 次へボタンをクリックする

8 大きくしたいパーティションを選ぶ



9 次へボタンをクリックする

パーティションのサイズを大きくする処理が行われ(しばらく時間がかかる)処理が完了するとメッセージが表示される



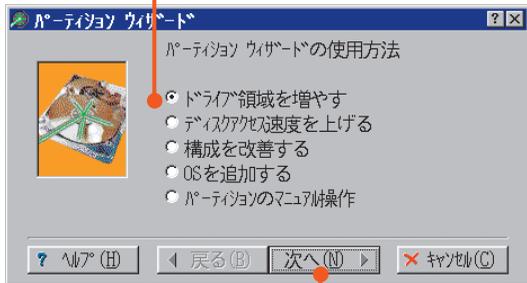
10 OKボタンをクリックする

ステップ 13

パーティションを大きくするには (未使用領域を使用) - パーティションウィザード

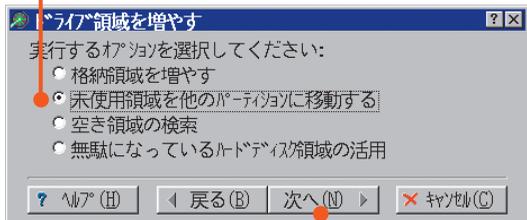
あるパーティションの未使用領域(パーティション内で使われていない領域)を、別のパーティションに割り当てることができます。この操作もパーティションウィザードで行います。

1 ドライブ領域を増やすを選ぶ



2 次へボタンをクリックする

3 未使用領域を他のパーティションに移動するを選ぶ

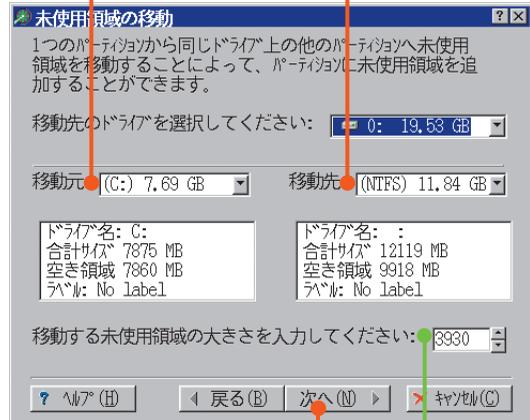


4 次へボタンをクリックする

ステップ 13 パーティションを大きくするには (未使用領域を使用) - パーティションウィザード

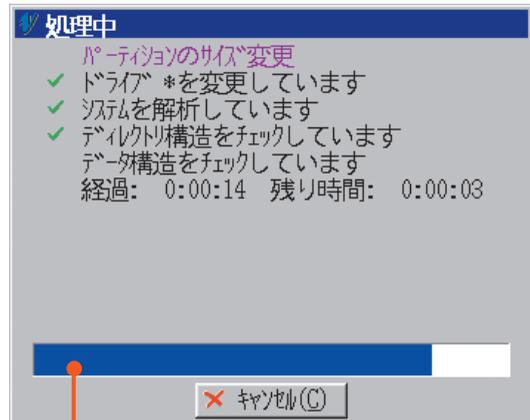
5 移動元のパーティションを指定する

6 移動先のパーティションを指定する



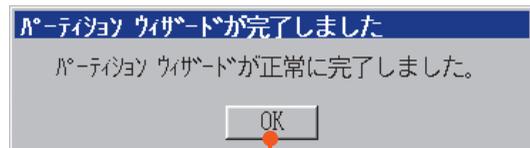
8 次へボタンをクリックする

7 移動する容量をMB単位で指定する



移動の処理にはしばらく時間がかかる

移動が終わるとメッセージが表示される



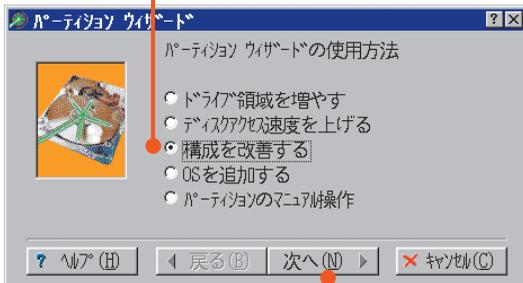
9 OKボタンをクリックする

ステップ 14

パーティションをコピーするには - パーティションウィザード

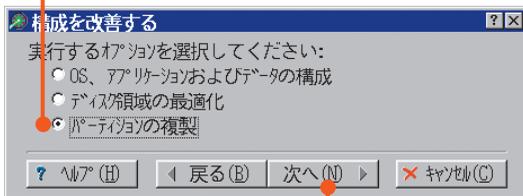
ハードディスク上のあるパーティションを、同じハードディスクの空き領域や、他のハードディスクの空き領域にコピーすることができます。この処理は、パーティションウィザード / 手動操作のどちらでも行えますが、ここではパーティションウィザードの手順を解説します。

1 構成を改善するを選ぶ



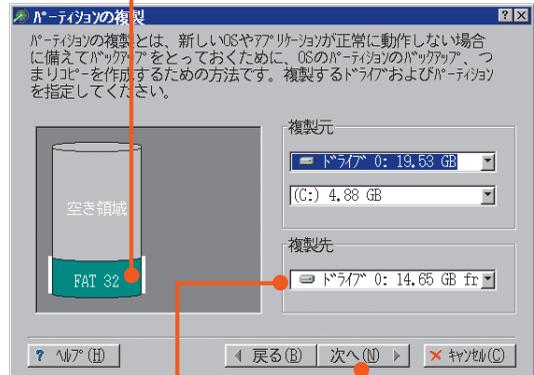
2 次へボタンをクリックする

3 パーティションの複製を選ぶ



4 次へボタンをクリックする

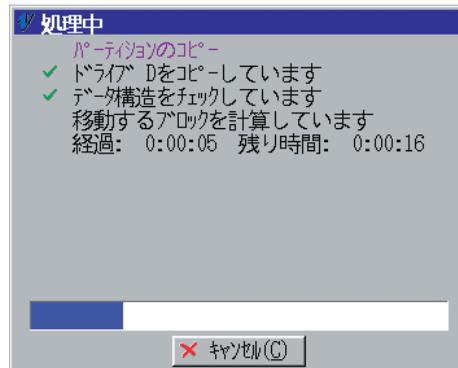
5 複製元のドライブ / パーティションを選ぶ



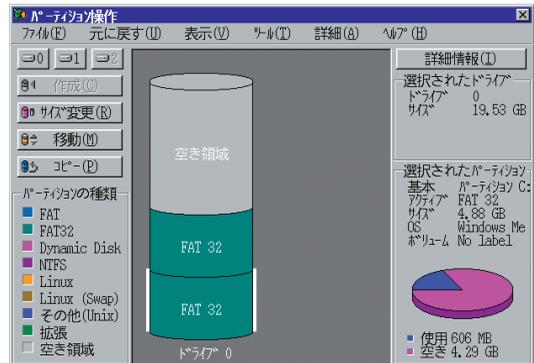
6 複製先のドライブを選ぶ

7 次へボタンをクリックする

パーティションがコピーされる(しばらく時間がかかる)



コピー終了後にパーティション操作画面を開くと、コピー後の結果を見ることができる



ステップ 15

パーティションをコピーするには - 手動操作

あるパーティションをコピーし、それと同じ内容のパーティションを作ることができます。この機能は、OSのインストールの際にパーティションをバックアップする場合などに使用すると便利です。

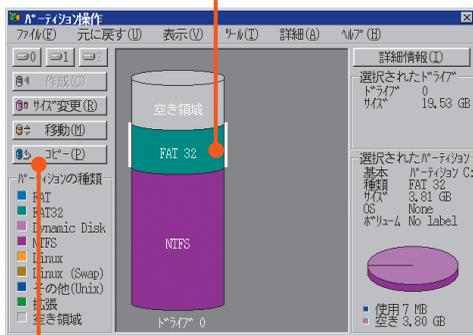
コピー前の準備

パーティションをコピーするには、そのパーティションのサイズより大きな空き領域が必要です。空き領域がない場合は、「ステップ 11 パーティションのサイズを変更するには」(26ページ)の手順で既存のパーティションを小さくして空き領域を作ってください。

コピーの手順

パーティションをコピーするには、パーティション操作の画面で次のように操作します。

1 コピーしたいパーティションを選ぶ



2 コピーボタンをクリックする

ONE POINT

注意

OSのパーティションをコピーしても、OSの種類によってはコピー先のパーティションから起動できない場合があります。

ステップ 15 パーティションをコピーするには - 手動操作

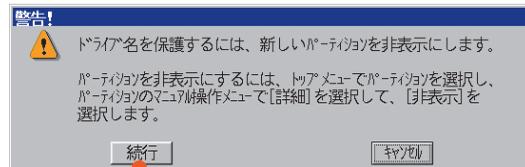
3 コピー先のドライブを選ぶ



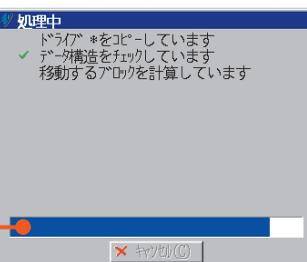
4 コピー先の空き領域を選ぶ

5 次へボタンをクリックする

コピー先が基本パーティションになる場合は、このメッセージが表示される

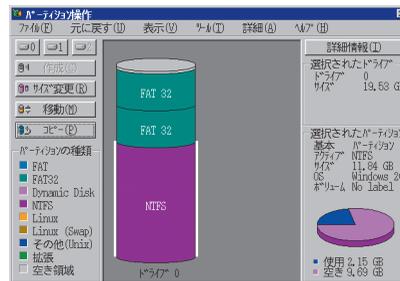


6 続行ボタンをクリックする



コピーにはしばらく時間がかかる

コピーした後の結果が表示される



ステップ16

パーティションを移動するには

ハードディスク内では、パーティションの位置を移動することができます。パーティションの配置を整理するとき使用すると便利です。

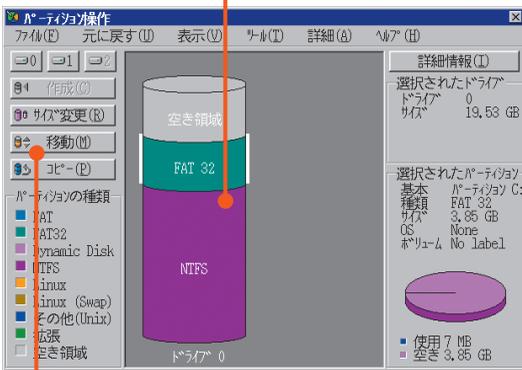
移動前の準備

パーティションを移動するには、移動したいパーティションに隣接した空き領域が必要です。空き領域がない場合は、「ステップ11 パーティションのサイズを変更するには」(26ページ)の手順で既存のパーティションを小さくして空き領域を作ってください。

移動の手順

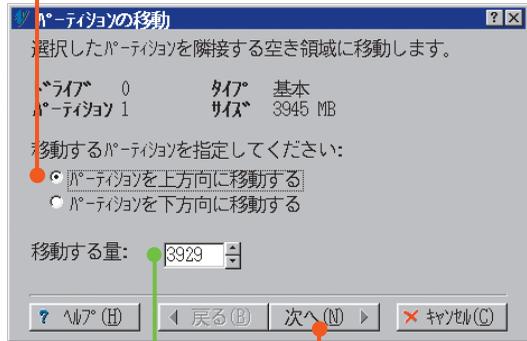
パーティションを移動するには、パーティション操作の画面で次のように操作します。

1 移動したいパーティションを選ぶ



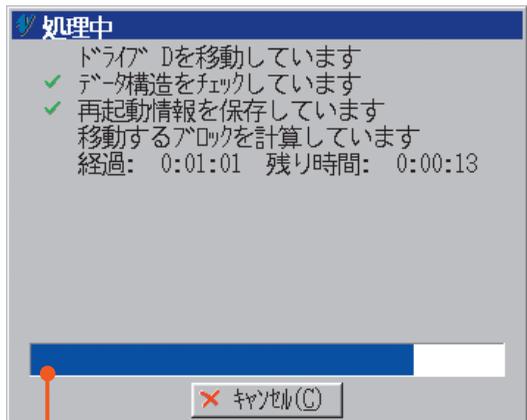
2 移動ボタンをクリックする

3 移動する方向を選ぶ



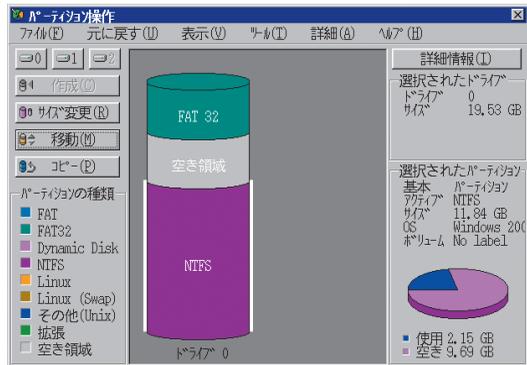
4 移動する量をMB単位で指定する

5 次へボタンをクリックする



移動の処理が行われる(しばらく時間がかかる)

移動後の結果が表示される



ステップ17

ファイルシステムを 変換するには

パーティションのファイルシステムは変換が可能です(一部のファイルシステムのみ)。OSによってアクセスできないファイルシステムがあるので、その問題を解決するときに使用すると便利です。

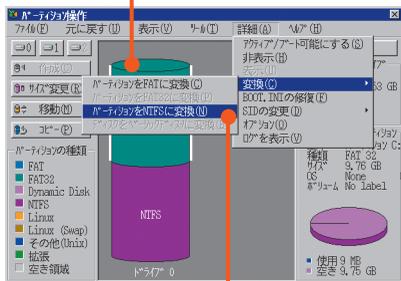
変換時の注意

この機能では、FAT、FAT32、FAT、NTFS、FAT32、NTFSのいずれかの変換が行えます。また、Windows 2000 / XPではハードディスクを「ダイナミックディスク」でフォーマットできますが、それを通常のディスク(ベーシックディスク)に戻すことも可能です。ただし、FATはサイズの上限が2GBなので、それ以上のサイズのFAT32 / NTFSパーティションをFATに交換することはできません。

変換の手順

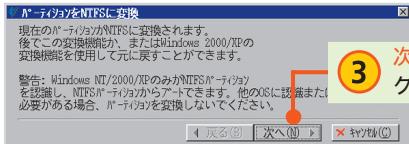
パーティションを変換する手順は次のとおりです。

1 変換するパーティションを選択する



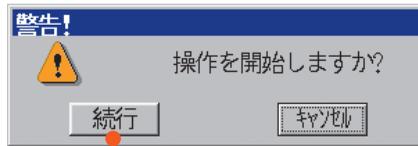
2 詳細 変換メニューで変換方法を選ぶ

変換に関するメッセージが表示される



3 次へボタンをクリックする

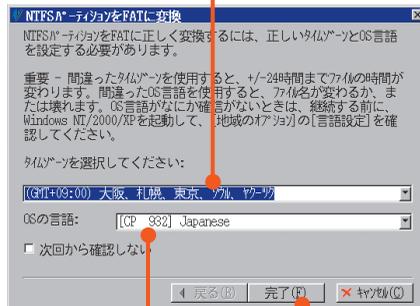
ステップ17 ファイルシステム を変換するには



4 続行ボタンをクリックする

変換元 / 先のどちらかがNTFSの場合この画面が表示される

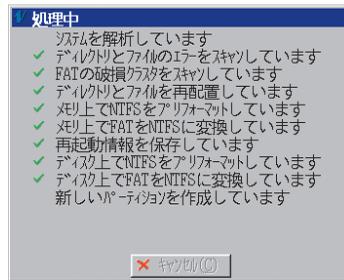
5 タイムゾーンとして大阪、札幌、東京、ソウル、ヤクーツを選ぶ



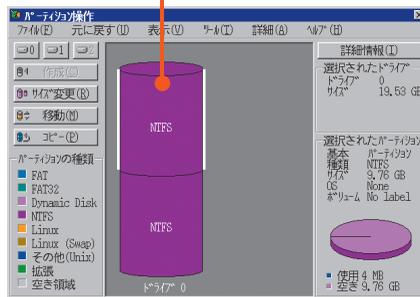
6 OSの言語で Japanese を選ぶ

7 完了ボタンをクリックする

変換の処理が行われる(しばらく時間がかかる)



変換が終わるとパーティションの状態が表示される



ステップ 18

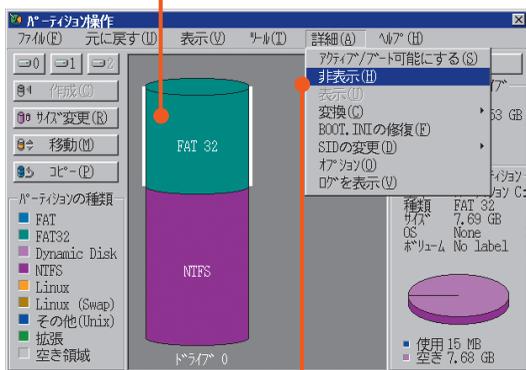
パーティションの表示 / 非表示を切り替えるには

パーティションを非表示にして、OSから認識されないように設定することもできます。また、非表示から表示の状態に戻すことも可能です。

パーティションを非表示にする

パーティションを非表示にする手順は、次のとおりです。

1 非表示にしたいパーティションを選ぶ

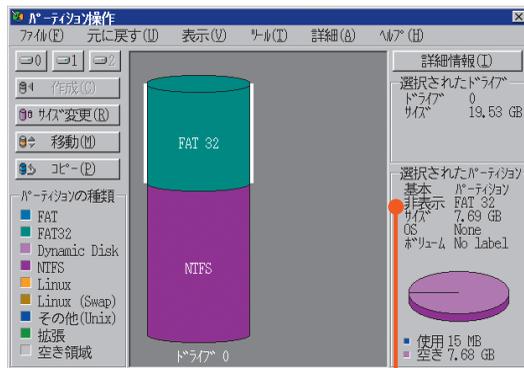


2 詳細 非表示メニューを選ぶ



3 OKボタンをクリックする

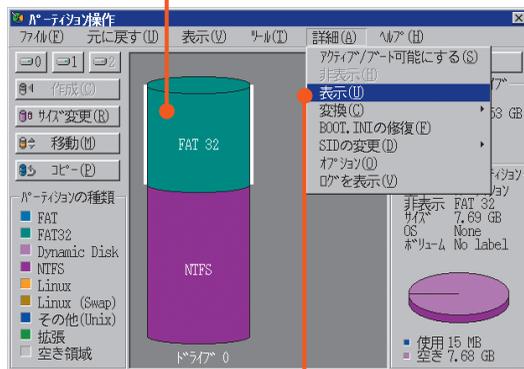
パーティションの状態に「非表示」と表示される



パーティションを表示する

パーティションを表示する手順は、次のとおりです。

4 表示したいパーティションを選ぶ



5 詳細 表示メニューを選ぶ



6 OKボタンをクリックする

ステップ19

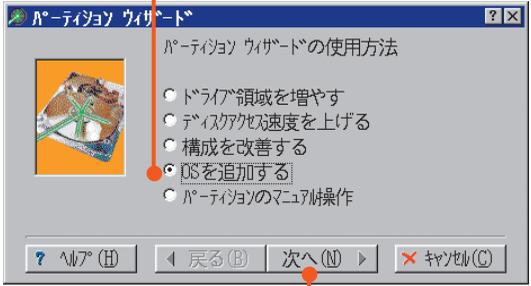
Windows Me/2000/XPとWindows Me/XPを共存するには

システムコマンドーパーソナルを使うと、1台のパソコンに複数のOSをインストールして、起動時に切り替えることができます。ここでは、Windows Me/2000/XPがインストールされているパソコンにWindows Me/XPをインストールして、切り替えられるようにする手順を解説します。

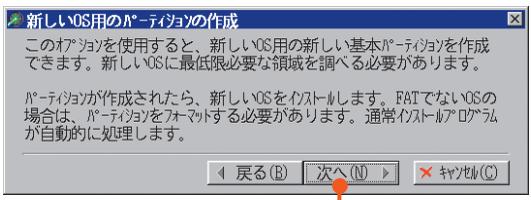
パーティションウィザードでインストール用パーティションを作る

まず、パーティションウィザードを使って、Windows Me/XPをインストールするためのパーティションを作ります。

1 OSを追加するを選択する



2 次へボタンをクリックする

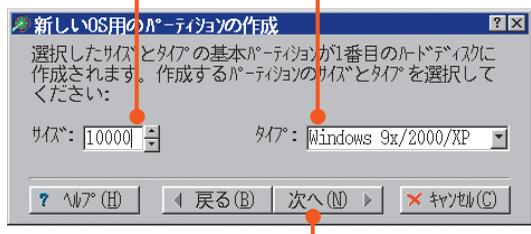


3 次へボタンをクリックする

ステップ19 Windows Me/2000/XPとWindows Me/XPを共存するには

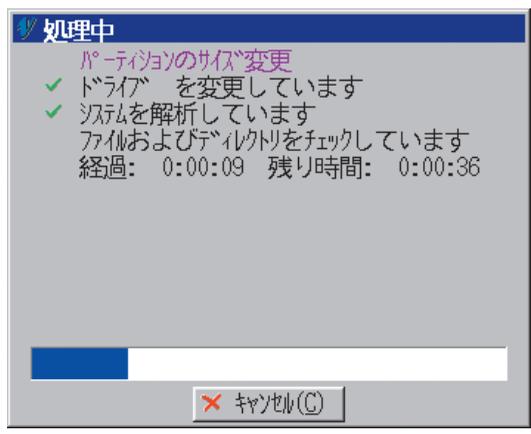
4 インストール用パーティションの容量を設定する

5 タイプとしてWindows 9x/2000/XPを選ぶ

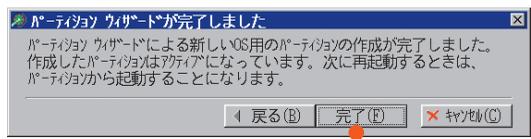


6 次へボタンをクリックする

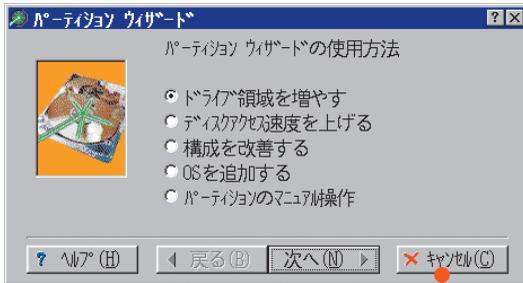
インストール用パーティションが作成される(しばらく時間がかかる)



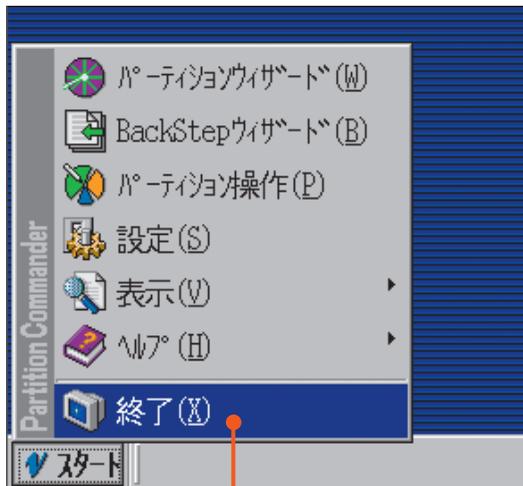
7 完了ボタンをクリックする



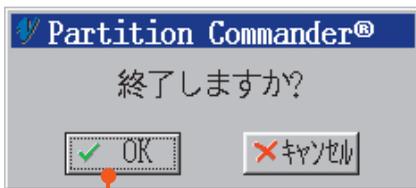
パーティションウィザードの画面に戻る



8 キャンセルボタンをクリックする



9 スタート 終了メニューを選ぶ

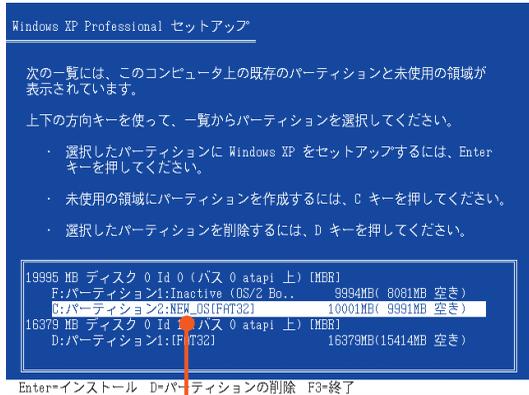


10 Windows Me / XPのインストールディスクをドライブにセットしてから、OKボタンをクリックする

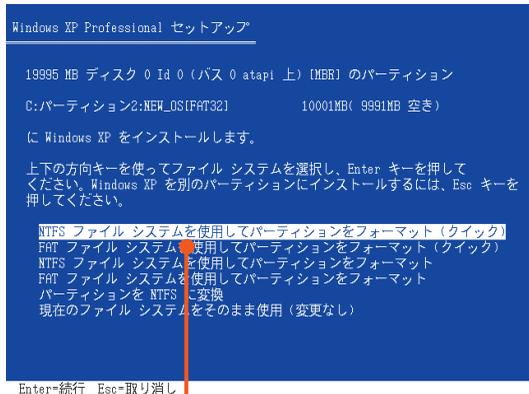
Windowsのインストール

インストール用パーティションが作成できたら、Windows Me / XPをインストールします。Windows Meのインストールは、通常通り行えばOKです。一方、Windows XPの場合は、インストール先パーティションと、ファイルシステムの設定に注意します。

「OSを追加する」の機能でWindows Me / XP用のパーティションを作ると、そのファイルシステムはFAT32になります。ファイルシステムをNTFSにしたい場合は、Windows XPのインストールの途中でファイルシステムを指定するステップがあるので、ここでNTFSフォーマットを指定します。



11 インストール先としてCのパーティションを選ぶ



12 ファイルシステムをNTFSにする場合は、NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマットを選ぶ

ステップ 20

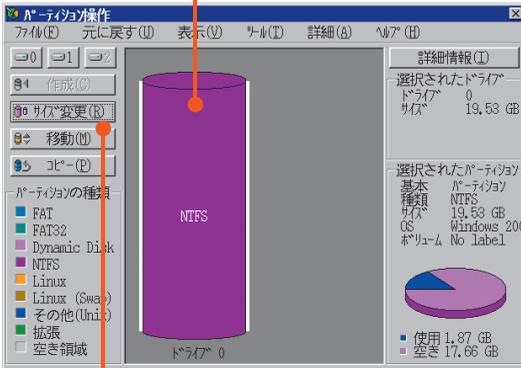
Windows Me/2000/XPとLinuxを共存するには

システムコマンドーパーソナルは、様々なOSに対応しています。Linuxにももちろん対応していて、Windows Me/2000/XPとLinuxを共存させることもできます。

Linuxのインストール用に 空き領域を作る

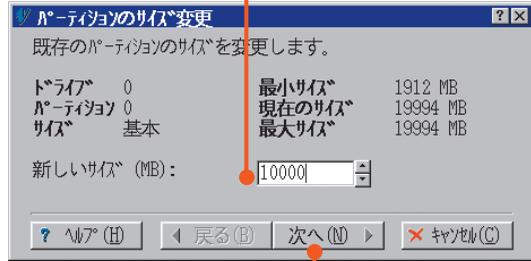
ハードディスクに空き領域がない場合、パーティション操作を起動し、既存のパーティションのサイズを小さくして、Linuxをインストールするための空き領域を作ります。

1 サイズを小さくするパーティションを選ぶ



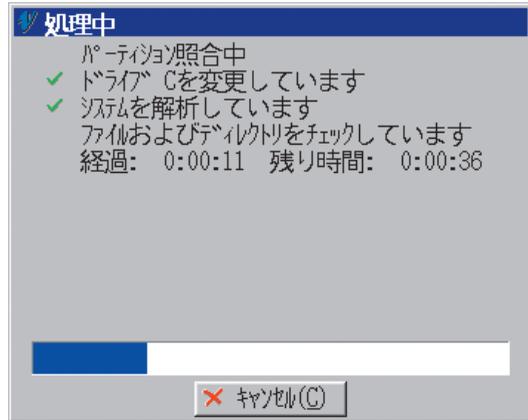
2 サイズ変更ボタンをクリックする

3 変更後のサイズを指定する

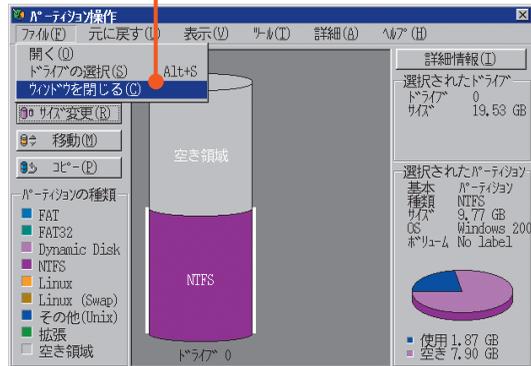


4 次へボタンをクリックする

サイズが変更される(しばらく時間がかかる)



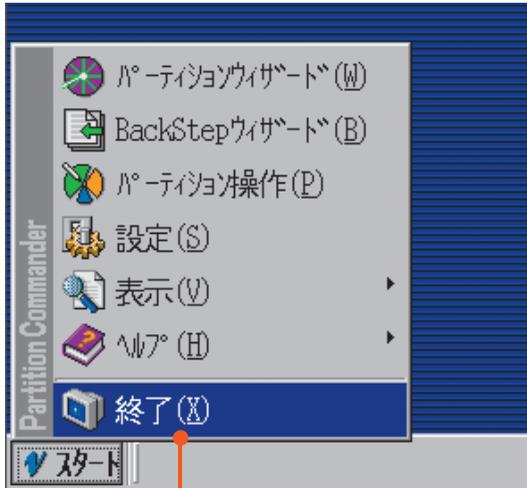
5 ファイル ウィンドウを閉じるメニューを選び、
パーティション操作のウィンドウを閉じる



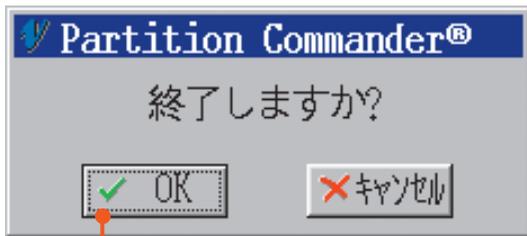
Linuxをインストールする

この後、Linuxをインストールしていきます。基本的には、普通にインストールを進めていけばOKです。まず、先ほど作った空き領域の中に、Linux用のパーティションとスワップパーティションを作ります。

ただし、Linuxのブートローダの格納先には注意が必要です。ブートローダはLinuxのパーティションにインストールしてください。たとえば、RedHat Linux 9では次の手順で設定します。



6 スタート 終了メニューを選ぶ



7 LinuxのCDをドライブにセットして、OKボタンをクリックする

ONE POINT

パーティションコマンドーでLinux用のパーティションを作成する

パーティションコマンドーでは、Linux用のパーティションも作成できます。作成手順は、ステップ9「パーティションを作成するには」(22ページ)を参照してください。

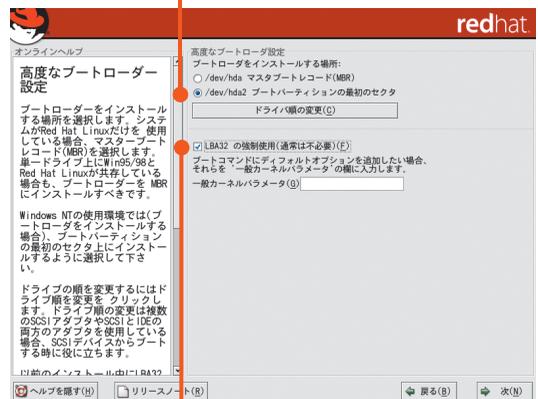
Linuxを使用するには、Linux本体をインストールするパーティションと、スワップパーティションの2つのパーティションが必要です。なお、Linux本体用のパーティションは「Linux Ext2」か「Linux Ext3」に、スワップパーティションは「Linux Swap」にします。



8 高度なブートローダオプションの設定をオンにする

9 次ボタンをクリックする

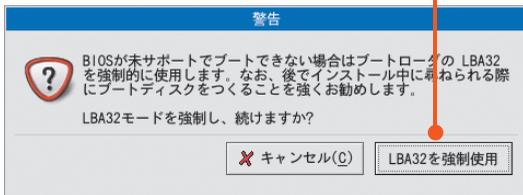
10 dev/hda2 ブートパーティションの最初のセクタをオンにする



11 ハードディスクの8GB超の領域にLinuxをインストールする場合は、LBA32の強制使用をチェックする

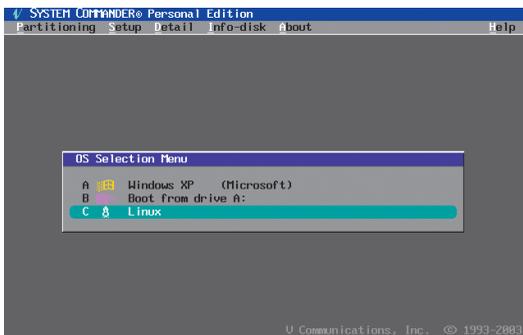
12 次ボタンをクリックする

13 手順でLBA32の強制使用をチェックした場合、このメッセージが表示されるので、LBA32を強制使用ボタンをクリックする



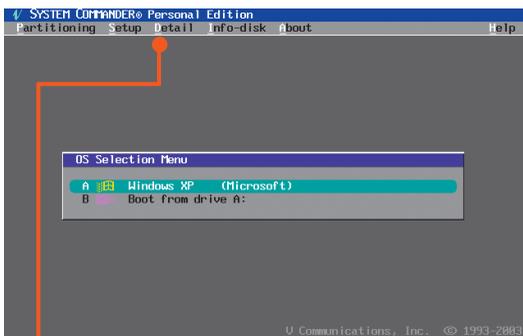
この後は画面の指示に従ってインストールを進める

インストール終了後にパソコンを起動すると、OS選択メニューにLinuxが追加される

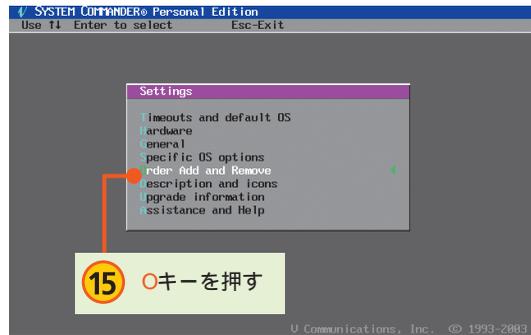


OS選択メニューにLinuxが追加されない場合

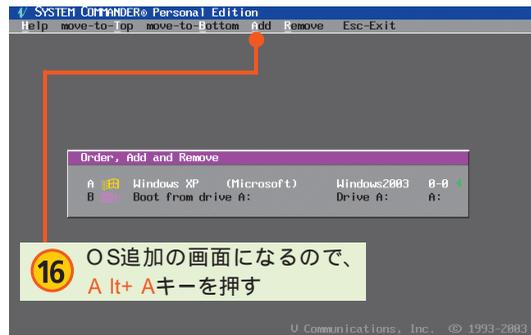
Linuxのインストール方法によっては、OS選択メニューにLinuxが追加されない場合があります。そのときは、次の手順で手動で追加します。



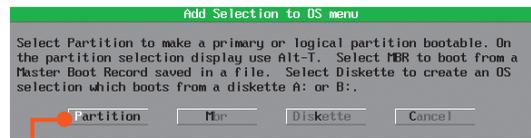
14 OS選択メニューでAlt+Dキーを押す



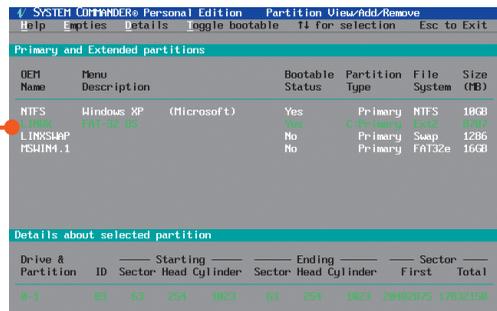
15 Oキーを押す



16 OS追加の画面になるので、Alt+Aキーを押す



17 Pキーを押す



18 カーソルキーでLinuxのパーティションを選び、Alt+Tキーを押す

なお、この方法でも追加できない場合は、パーティション操作の画面で何らかの操作を行い(アクティブ/ブート可能の設定等)その後パソコンを再起動します。

ステップ 21

パーティション操作を元に戻す /OSのアンインストール - BackStepウィザード

パーティション関係の操作を行った後で、その操作を取り消したい場合は、「BackStepウィザード」という機能を使います。OSのアンインストールも、この機能を利用して行うことができます。

ウィザード実行前の注意

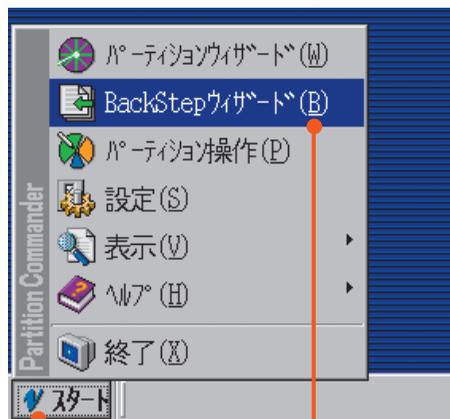
BackStepウィザードでパーティション操作を取り消した場合、その取り消した操作を元に戻すことはできません。たとえば、パーティションを作成した後、BackStepウィザードでその作成を取り消してそのパーティションを削除した場合、削除を元に戻すことはできません。

また、パーティション操作の内容によっては、BackStepウィザードを実行できない場合があります。たとえば、パーティションを削除して、同じ場所に新しいパーティションを作った場合、削除の操作を取り消すことはできなくなります。

BackStepウィザードの手順

BackStepウィザードは、次の手順で実行します。

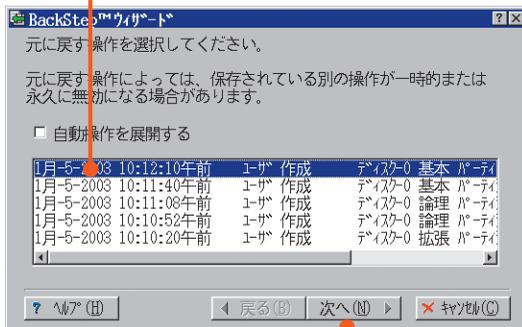
ステップ 21 パーティション操作を元に戻す / OSのアンインストール - BackStepウィザード



1 スタートボタンをクリックする

2 BackStepウィザードをクリックする

3 取り消したい操作を選ぶ



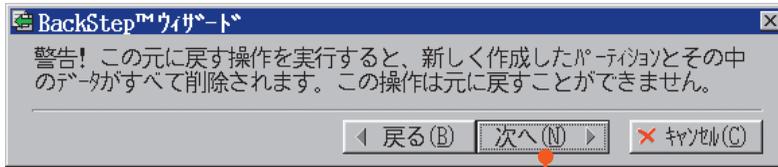
4 次へボタンをクリックする

ONE POINT

直前の操作の取り消し

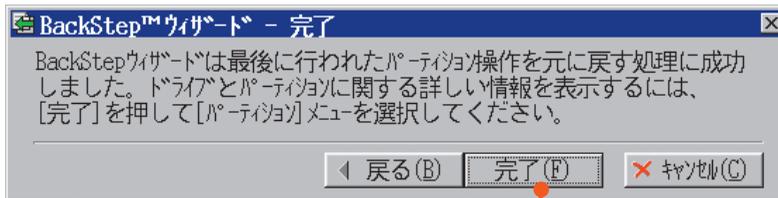
パーティションの操作を行った直後であれば、元に戻す の取り消しメニューで、その操作を取り消すことができます(には行った操作が入ります)。

本当に元に戻してよいかを確認する



5 次へボタンをクリックする

処理に成功するとこのメッセージが表示される



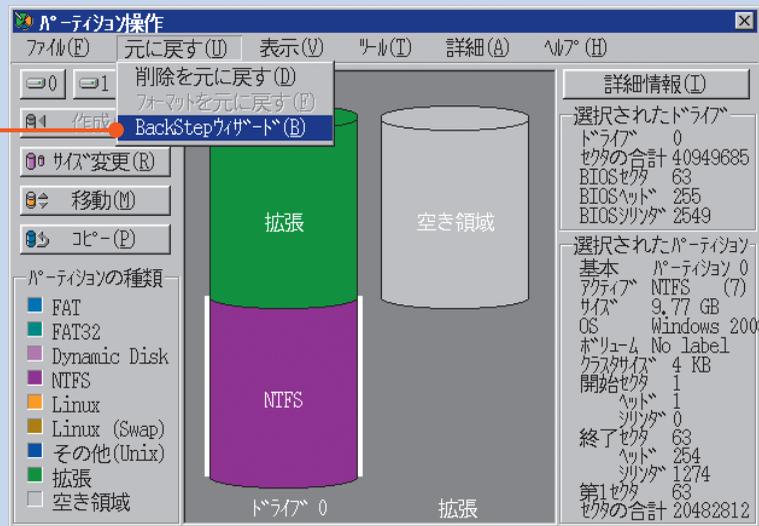
6 完了ボタンをクリックする

O N E P O I N T

パーティション操作画面からの起動

BackStepウィザードは、パーティション操作の画面で元に戻す BackStepウィザードメニューを選んで起動できます。

パーティション操作画面で、元に戻す BackStepウィザードメニューを選んでよい



トラブルシューティング

パーティションコマンドー8を使っている際に、トラブルが起こることもあります。ここでは、主なトラブルとその対処方法を紹介します。

インストール / アンインストール関連

Q Windows NT/2000/XPへパーティションコマンドー8をインストールする場合の注意事項について教えてください。

A Windows NT/2000/XPへパーティションコマンドー8をインストールすると、既存のNTFSのパーティションをパーティションコマンドー8の機能でOS側から認識できない設定になります。これは、既存のOSを保護するために行っていますが、既存のOSが起動できなくなる場合などがあります。これを回避するには、次の手順を操作を行ってください。

PCの電源を入れる

パーティションコマンドー8を起動する

Alt + Sキーを押す

「Secific OS Option」を選択する

「Primary partitions visible on drive 0:」にカーソルを合わせEnterキーを押す

すべてパーティションを「Visible」にする

Escキーを数回押す

この操作を行えば、問題なく既存のOSを起動させられます。

Q パーティションコマンドー8をアンインストールしたのに、起動時にBOOT2エラーが表示されてしまいます。

A パーティションコマンドー8のアンインストールが、正常に行われなかった可能性があります。次の操作を実行してみてください。

パーティションコマンドー8のインストール時に作成した起動ユーティリティディスク1でシステムを再起動する

プロンプトが表示されたら「scin」と入力し、Enterキーを押す

「Disable or Remove System Commander」を選択する

「Temporarily Disable System Commander」を選択する

これで、パーティションコマンドー8の中の、MBR(マスターブートレコード)の部分が削除されます。最後にフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。

Q パーティションコマンドー8が、コンベンショナルメモリ不足でインストールできません。

A CD-ROMの中にある¥install¥setupを実行してください。

Q パーティションコマンドー8のインストール時に「ウイルス解析警告...」のメッセージが表示されます。

A この内容のメッセージは、コンベンショナルメモリの値が通常値(640KB)ではないときに表示されることがあります。ただし、OSや環境によっては、コンベンショナルメモリの値が640KBではないこともあるので、正常に動作している場合は特に問題はありません。

メッセージが表示された場合には、ESCキーを押してインストールを続行してください。

OSのインストール関連

Q パーティションコマンドの画面が乱れて表示されます。

A パーティションコマンドは、画面の解像度の最適値を自動的に検出して起動します。ただ、高すぎる解像度で起動してしまうこともあります。その場合は、次の手順をとってください。

システムコマンドパーソナルのOS選択メニューでAlt+F11キーを押す
コマンドプロンプトが起動するので、「CD SC」と入力してEnterキーを押す
「SCOSW PARTITION V 0(最後の2文字はブイゼロ)」と入力してEnterキーを押す
パーティション操作の画面が表示されるので、「スタートボタン 設定」メニューを選ぶ
設定画面が開くので、ビデオモードを「自動検出」から「640×480」に変えて、OKボタンをクリックする

Q Windows 95/98/Meは2台目のハードディスクにインストールできますか？

A Windows 95/98/Meは、OSの制約により、1台目のハードディスクの基本パーティションにしかインストールできません。

Q 2つ目のWindows 95/98/Meをインストールしたら、1つ目のWindows 95/98/Meが隠れてしまいました。

A 起動ユーティリティディスク1をドライブに入れて、システムを再起動してください。

Q OS選択メニューを表示しないように設定できますか？

A パーティションコマンド8をインストールする際に、システムコマンドパーソナルも使用する設定にすると、パソコンの起動時にOS選択メニューが表示されます。しかし、OSを1つしか使わないのであれば、OS選択メニューはかえって邪魔になるでしょう。

そのような場合は、システムコマンドパーソナルを使わない設定にします。その手順については、ステップ4(12ページ)を参照してください。

Q OSをインストールしたらOS選択メニューが表示されなくなりました。

A Windows Meなど、インストールの際にMBRを書き換えてしまうOSがあります。そのような場合、OSのインストール後にはOS選択メニューが表示されなくなります。

OS選択メニューを再度表示するには、MBRをシステムコマンドパーソナルのものに書き換えます。起動ユーティリティディスク1でパソコンを起動すると、その処理が自動的に行われます。

Q Windows NTをインストールする際の注意点を教えてください。

A Windows NTの起動にはOS Loaderが必要です。OS Loaderは通常Windows NTのインストールの際、Cドライブにコピーされます。このとき、CドライブがFAT32形式でフォーマットされていると、Windows NTのインストーラはその領域にOS Loaderをコピーできず、インストールが失敗します。これはWindows NTがFAT32の領域にアクセスできないためです。

したがって、既にCドライブがFAT32形式になっている、新たにWindows NTを他の領域にインストールする場合は、CドライブをFAT16形式に変換するか、一度Cドライブを削除して、先にWindows NTをインストールしてから、Windows 95/98/Meをインストールしてください。

Q Windows NTがインストールされている環境にWindows 2000をインストールしたら、Windows NTが起動できなくなりました。

A Windows 2000はNTFSバージョン5のため、Windows NT4.0(ServicePack4より前のバージョン)がインストールされている環境でWindows 2000を起動するとWindows NT4.0がNTFSバージョン5に変換されるため、起動できなくなります。

その場合にはWindows NT4.0を再インストールしてください。

・Windows 2000がインストールされている環境でWindows NT4.0をインストールする場合

Windows 2000を起動する前に、必ずWindows NT4.0をSP4以上にしてください。

・Windows NT4.0がインストールされている環境でWindows 2000をインストールする場合

Windows 2000をインストールする前に、必ずWindows NT4.0をSP4以上にしてください。

Q Windows 2000 をインストールした際、ほかのドライブを非表示にしましたが、Windows 2000 を起動すると隠したはずのドライブが認識されています。

A Windows 2000はWindows 9XのOSとはディスクのアクセス方法が異なるため、ドライブを認識してしまうとWindows 2000側でドライブの設定を保持するので、パーティションコマンド-8での設定は無視されてしまいます。

Windows 2000の「ディスクの管理」にある「ドライブ文字のパスと変更」でドライブ文字を変更(削除)してください。

・Windows 2000上でのドライブの非表示方法

コントロールパネルから「管理ツール コンピュータの管理」を選び、「ディスクの管理」にある「ドライブ文字とパスの変更」で、表示したくないドライブのドライブ文字を削除してください。なお、このときパーティションの削除は絶対にしないでください。パーティションが削除され、復旧できなくなります。

Q LinuxをインストールしたのにOS選択メニューに表示できません。

A Linuxのインストール方法によっては、システムコマンド-パーソナルのOS選択メニューに自動で追加されないことがあります。その場合は、次の手順で、手動でOS選択メニューに追加します。

OS選択メニューでAlt + Sキーを押し、Settingsの画面を開く

カーソルキーで「Order Add and Remove」を選び、Enterキーを押す

OS選択メニューの色違いの画面が表示される

Alt + Aキーを押す

Add Selection to OS Menuの画面が表示される

Alt + Pキーを押す

Partition View/Add/Removeの画面が表示される

カーソルキーでLinuxのパーティションを選び、Alt + Tキーを押し、Bootable Status列を「No」から「Yes」に変える

Escキーを何度か押し、OS選択メニューに戻る

なお、この方法でもLinuxをOS選択メニューに追加できない場合は、パーティション操作の画面で何らかのパーティション操作を行い(サイズ変更など) その後に ~ の手順を再度行います。

その他の質問

Q メニュー操作画面でマウスが動きません。

A パーティション Commander 8は、USBマウスをサポートしていません。PS /2マウスをご使用いただくか、キーボードにて操作を行ってください。

Q Windows 2000 / XPのダイナミックディスクに対応していますか？

A パーティション Commander 8では、ダイナミックディスクから、通常のNTFSフォーマットへ変換できるようにになりました。ただし、ダイナミックディスクは、BDSレベルではなくOSレベルで制御されているため、パーティション Commander 8ではダイナミックディスクを操作できません。

Q 起動ユーティリティディスク / リスタートディスクを作り直せますか？

A トラブルが起こった場合、起動ユーティリティディスクやリスタートディスクが必要になることが多いので、これらのディスクは必ず作っておいてください。

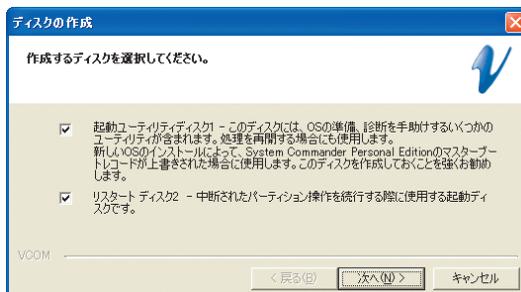
何らかの原因で起動ユーティリティディスクやリスタートディスクが壊れた場合や、パーティション Commander 8のインストール時にこれらのディスクを作らなかった場合は、次の手順で作成できます。



1 「スタートボタン すべてのプログラム Partition Commander コンソール」を選ぶ



2 「起動 / リスタートディスクの作成」を選び、「次へ」ボタンをクリックする



3 画面の指示に従って、起動ユーティリティディスクとリスタートディスクを作成する

Q パーティション操作を間違えてしまいました。

A パーティションを操作する際に手順などを間違え、思い通りの結果にならないこともあります。その場合は、BackStepウィザードを実行して、操作を元に戻してください。BackStepウィザードの使い方は、ステップ21(41ページ)を参照してください。

ただし、操作の内容によってはBackStepウィザードが使えないこともあります。パーティションの操作は慎重に行ってください。

Q パソコンの起動時にBOOTエラーの画面が表示されます。

A パーティション Commander 8本体がインストールされているパーティションをフォーマットしたりすると、パソコンの起動時にパーティション Commander 本体

が見つからなくなり、BOOTエラーの画面が表示されることがあります。

このような場合、パーティションの一覧の中から、Windowsが入っているパーティションを選んで起動します。Windowsのパーティションをフォーマットした場合は、Windowsを再度インストールします。

Windowsを起動したら、パーティションコマンドをインストールし直します。インストールの手順は、ステップ3(10ページ)を参照してください。

```

---Missing SYSCMNDR.SYS! Boot error: A-00

Partition 0 id=00 (empty)
Partition 1 id=1C (other)
Partition 2 id=00 (empty)
Partition 3 id=00 (empty)
Select partition to boot, 0-3:
    
```

BOOTエラーの画面

Q 空き領域と未使用領域の違いは何ですか？

A 空き領域とは、ハードディスク上でパーティションが割り当てられていない部分のことを指します。パーティション操作の画面では、空き領域は灰色で表示されます。

一方、未使用領域とはパーティションの中で使われていない部分のことを指します。たとえば、5GBのパーティションのうち、ファイルやフォルダで3GBを使用しているとすれば、残り2GBが未使用領域になります。

索引

アルファベット

BackStepウィザード	7,41
BigDrive	6
BSDのMBRチェック機能	9
BOOTエラー	46
BOOT2エラー	43
ext2	16
ext3	16
FAT	16
FAT32	16
FreeBSD	16
Linux	
のインストール用に空き領域を作る	38
をインストールする	39

MBR(マスターブートレコード)	17
NTFS	16
OS選択メニュー	7,40,44,45
OS	
が起動するまでの流れ(図)	17
のアンインストール	41
を追加する	6,19

あ

空き領域	47
アンインストール	12
インストール	10
インストール用パーティションを作る	35,39
ウィルス解析警告	43

